

第76回 憲法を考える映画の会

アトミック・カフェ

手元資料

- 日時：2024年6月29日（土）13：30～
- 会場：文京区民センター 3A会議室

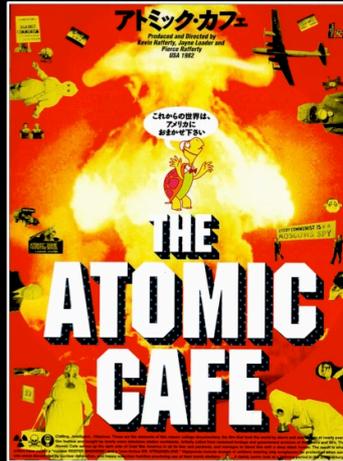
●プログラム

- 13：30～13：40 映画について
- 13：40～15：05 映画『アトミック・カフェ』
(89分)
- 15：15～16：20 トークシェア
・映画を見て考えたこと
- 16：20～16：30 これからの
憲法を考える映画の会

第76回 憲法を考える映画の会

THE ATOMIC CAFE

アトミック・カフェ



2024年6月29日（土）
13時30分～16時30分
文京区民センター 3A会議室
(地下鉄 春日駅 2分・換乗駅 5分)

プログラム

13：30～13：40 この映画の背景について
13：40～15：05 映画『アトミック・カフェ』上映
15：25～16：30 トークシェア

●加費：一般 1000円 学生・若者 無料
(当日、会場でお支払いください。
予約不要でもなだでも参加できます)

今回の映画を見て考えたいこと

アメリカの原爆開発当時の、原爆への攻撃を目的とした原爆を材料に、アメリカ政府、軍のプロパガンダについて考えていくとする映画です。そこには、政府や軍がどのように国民的に、原爆の開発を強く印象づけようとするプロパガンダをまき散らしていたかが浮かび上がってきます。それは何を意図したものなのか？
その背景を見ていくと、真や政治が都合よく、（都合の悪いものは隠して）科学的な進歩も併走なく、国民の安全や健康など二の次で、核開発を第一に急いでいたのがよくわかります。国家や軍は国民の生命を守らない、原爆を守るためには平気で国民の生命をも犠牲にすることがわかります。

しかし、この映画は70年前のアメリカの影として、そのほか、いい加減さを異材料にしてばかりはいられませんが、まさに今、それが重なり、同じような状況、酷い状況がまじりに進められています。そのことを知ると、懐疑とします。

北朝鮮の弾道ミサイルの飛来への「注意」を呼びかける3アラート、ミサイル基地建設の進捗のようにより詳細で行われた情報開示、東京、埼玉や全国の学校や街角でも騒がれ広がりました。今の日本ではマスメディアも、例えば「アラート」が発せられると、金曜夜放送を止め、その報道にばかりはなならないと断断されています。いつの間にかそんな決まりができたのか。

まさに緊急の節目である「緊急事態条項」を先取りです。そこには危険を振り、有無を言わずなれば、後にはやりがちな、自分たちに都合の良い意思の便法、執断に努めているかのようです。
この映画を見て、政治が戦争への道を突き進むようとしている今、その戦争の危機を振り、憲法に利用しようとしている側面はどこにあるのか、ねらいは何なのかを考えて行きたいと思えます。

憲法を考える映画の会

〒185-0024 東京都国分寺市泉町3-5-6-303
mail: hanasaki33@me.com
TEL: 042-406-0502
http://kenpou-eiga.com/?p=2994

映画『アトミック・カフェ』

放射能バツバを付け、悪心へ送り込まれるアメリカ兵たち。まるで実験動物のような彼らに対して上層は“暴風や熱い火は放射能に心配はない”と告げる。
かわいカメのパート君が登場する教育アニメーションでは、原子爆弾が爆発したときの対処法を子どもたちに分かりやすく説明してくれる。パート君曰く“バツバ”が死んだら、すぐに原爆を落とすこと…。

本作はこうした原爆に対する攻撃を目的としたフィルム素材だけを用い、ナレーションを排して巧みな編集でつないだ映像のみで、大衆プロパガンダの恐怖を浮かび上がらせていく。
米の原爆開発競争が激しかった当時、アメリカ政府は国民を安心させるために原爆 P R 用フィルムを制作した。原爆がいかに安全であるか、害のないものであるかをまじりに隠したこの映画は政府や軍部が国民に歴史に隠る様をついたことを裏証するものであった。

(1982年制作/89分/ドキュメンタリー/アメリカ映画
ケン・ラファティ ジェーン・ローダー ピアース・ラファティ監督・制作作品)

■手元資料 目次

資料①	映画『アトミック・カフェ』について	P.2
資料②	この映画を選んだ理由	P.3
資料③	原爆・核実験・放射能汚染・内部被曝について 考える映画・映像	P.4
資料④	憲法映画祭2024湯本雅典さんのお話	P.6
資料⑤	憲法映画祭2024伊東英朗さんのお話	P.8
資料⑥	第75回「憲法映画祭2024」2024/4/29 参加者感想から	P.11
資料⑦	憲法を考える映画の会 あとおいニュース	P.16

憲法を考える映画の会

〒185-0024
東京都国分寺市泉町3-5-6-303
TEL & FAX : 042-406-0502
ホームページ : <http://kenpou-eiga.com/>
E-mail : hanasaki33@me.com



資料① 映画『アトミック・カフェ』について

映画『アトミック・カフェ』について

『アトミック・カフェ』(The Atomic Cafe)は、アメリカ人の映画監督ケヴィン・ラファティ、ジェーン・ローダー、ピアース・ラファティが1982年公開した、核兵器に関するドキュメンタリー映画である。ニュース映画や政府所有のフィルム、ラジオ音声などにより構成され、一切のナレーションは排されている。

映画の概要

使われている素材は、人類史上最初の核実験、広島・長崎への原爆投下、ビキニ核実験などの実際の映像のほか、アメリカ政府制作の反共プロパガンダ映画、ニュース映画、大統領の演説音声、ラジオ放送、民間防衛のための広報フィルムなど多岐にわたる。素材はいずれも編集されているが、全て実際に撮影・製作・放送されたものである。

監督のケヴィン・ラファティらは、もともとプロパガンダを中心とした映画を作るため、映像を入手するためにワシントンD.C.のアメリカ議会図書館、空軍基地などを訪ね歩いていた。やがて彼らは原爆関連のプロパガンダを主題とすることに決め、さらに5年の歳月をかけて映画を完成させた。

バックミュージックに流れるポップな音楽は、全て核兵器に関連した曲である。(少なくとも当時のアメリカでは)核兵器が「長い戦争を終わらせた兵器」というポジティブな認識があった時代の作品であり、また反共主義と人種差別意識に満ちているものも多い。音源は映画公開と同時にCDで発売されたが、現在では販売されていない。

1982年にアメリカで公開、翌1983年に日本で公開された。20年の歳月を経て、日本では2004年に東京・渋谷の映画館「ユーロスペース」などで再公開されたほか、同年12月に竹書房からDVDが発売された。限定のDVDセットには現代美術画家のヤノベケンジがデザインしたTシャツが含まれている。

ストーリー

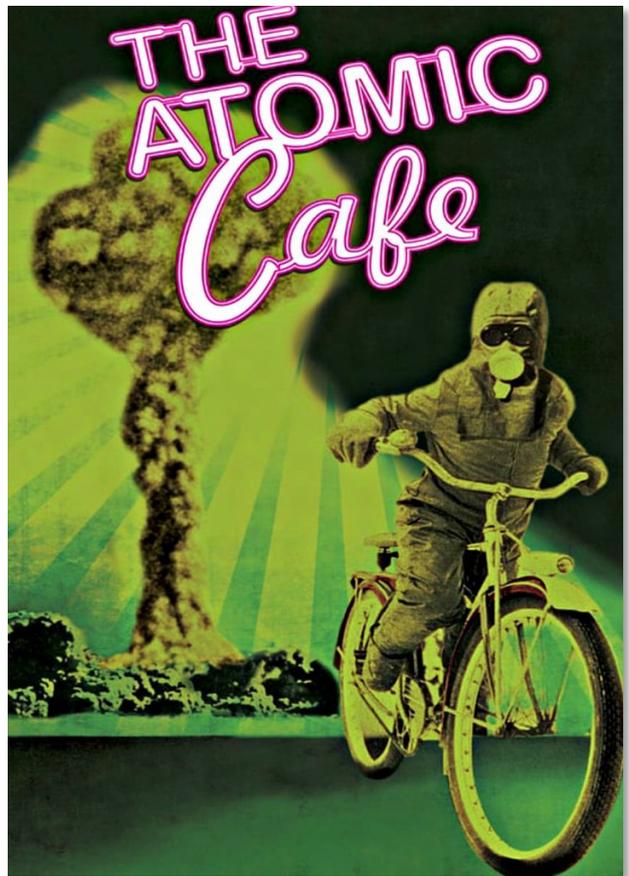
1945年の3つの核爆発(トリニティ実験、広島、長崎)から始まる「核の時代」。その象徴である原子爆弾は「最強の兵器」であり、アメリカ国民はその威力に酔いしれていた。翌1946年に中部太平洋ビキニ環礁で行われた航海核実験では、きのご雲の下での壊滅的な破壊の様子が余すことなく伝えられた。しかし「人類のため」という大義名分の下に、広島や長崎の悲劇的な現実隠され、ビキニの島々や人々を襲う破壊と放射能の脅威は、でたらめで曖昧な説明でしか伝えられなかった。ビキニから避難した島民は、二度と戻れなかった。

東ヨーロッパと極東アジアに冷戦の構図が広がる中、1949年にソビエトが原爆開発に成功した。アメリカ対ソビエトの核戦争の脅威が現実のものとなった。アメリカ社会は反共主義、マッカーシズムの波に覆われていく。原爆スパイと疑われたローゼンバーグ夫妻は電気椅子で処刑され、1950年の朝鮮戦争では北朝鮮領内への原爆投下が検討される。

その必要性が問われる中、1950年代初頭には米ソ双方が水素爆弾を開発し、「最悪の場合」の破壊の規模が何十倍にもなった。アメリカでは原爆を利用した軍事訓練が行われ、大勢の兵士がきのご雲を目指して突進した。彼らアトミック・ソルジャーに対し、放射能は「一番どうでもいいもの」と説明された(その後、大勢の兵士が放射線障害に蝕まれていく)。

1954年には日本のマグロ漁船「第5福竜丸」が、アメリカの水爆実験に巻き込まれた。核兵器が世界を救うものなのかということについて疑問が起こり始める。そして核戦争に対する恐怖はアメリカ社会の隅々にまで広がっていく。亀のバート君が登場する子供向けの民間防衛フィルム『ダック&カヴァー(Duck and Cover・さっと隠れて頭を覆え)』が子供たちに原爆への対処法を説明する。家庭用の核兵器用シャルターが売れていく。そして、いざというときは…。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』



映画の解説

米ソの原爆製造競争が激しかった当時、アメリカ政府は国民を安心させるために原爆PR用フィルムを製作した。原爆がいかに安全であるか、害のないものであるかをまじめに説いたこの映画は政府や軍部が国民に歴史に残る嘘をついたことを実証するものであったが、本作はこれをさらに編集し、ドキュメンタリーの要素を持つニシカルなパロディー映画にした。

監督・製作は「ハリイ・トゥモロー」のケヴィン・ラファティとジャーナリストのジェーン・ローダー、公文書研究の専門家ピアース・ラファティ。編集はケヴィン・ラファティとジェーン・ローダー。調査に当たったのはピアース・ラファティ。音響はマージー・クリミンズ。音楽コーディネーターはリック・イーカー。音楽コンサルタントはリチャード・バスとデイヴィッド・ダナウェイ、チャールズ・ウォルフ。製作コンサルタントはオビィ・ベンツ、スザン・ケラン、ジョージ・ピルスバリー。

1982年製作/アメリカ映画

原題: The Atomic Café

劇場公開日: 1983年8月15日

(「映画.com『アトミック・カフェ』」より転載)

【この映画を選んだ理由】

原爆や放射能のことを、アメリカの国民（庶民）は、どのように思っているか、また教えられてきたのかを知りたいと思っていました。

この映画は映像のほとんどの部分を、アメリカ軍の広報映画や教育映画、原爆にどう対応するかを啓発するラジオ番組、テレビ番組を使って構成しています。この作品独自のナレーションはありません。ラジオの音声には、その当時の写真や映像をバックグラウンドに当て、また音声のない映像には、当時流行っていた原爆などのフレーズの入る歌や楽曲をのせています。

当時の核の「真実」を伝える報道と、それを受け入れている時代の空気を巧みにまとめ、作り手自身が伝えたい皮肉を込めたメッセージを作り替えています。

そうして、原爆開発当時、政府や軍がどのように意図的に、原爆の被害を軽く印象づけたいとするプロパガンダをまき散らしていたかが浮かび上がってきます。

その情報は軍や政治が都合よく、都合の悪いものは隠して、科学的な根拠も何もなく、国民の安全や健康など二の次に核開発競争を第一に動いていたかがよくわかります。国家や軍は国民の生命を守らない、政権を守るためには平気で国民の生命をも犠牲にすることがわかります。

なかでも「原爆が落とされそうになったらどうすれば良いか？」の解答にはあきれかえります。DIYで庭に小屋を作るかのようにシェルターを作ること呼びかけます。避難訓練はとにかく頭を隠せばよいと「教育」している様は、可笑しさと愚かしさに満ちています。

しかし、この70年前のアメリカの姿を笑う材料ではなく、今でも、わが国では、同じようなおかしい、愚かしい政策が粛々と大まじめに行われていることを知ると、慄然とします。

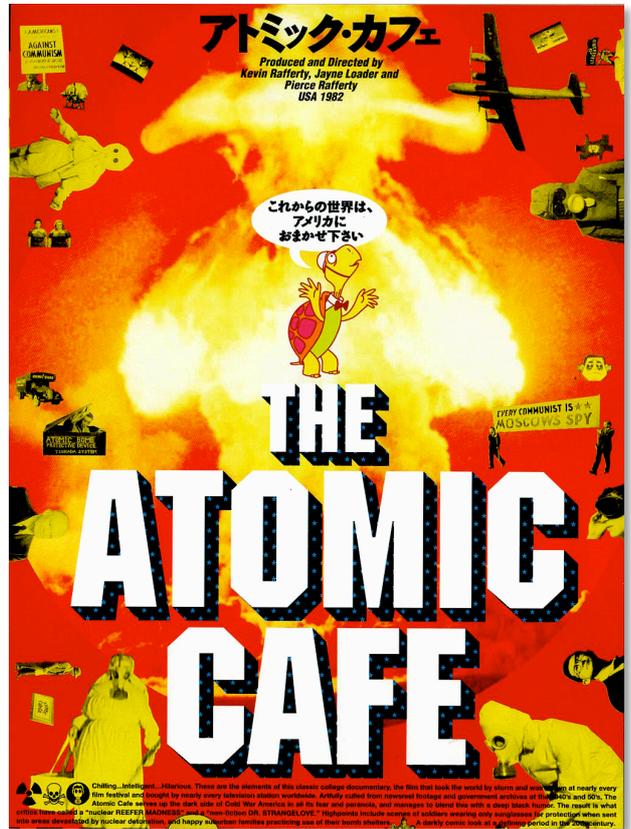
北朝鮮の弾道ミサイルの飛来への「注意」を呼びかける「Jアラート（全国瞬時警報システム）」」。沖縄や東京、埼玉でも行われた市民、学校の避難訓練。誰もがそんなことは無いだろうとタカをくくっていても、それが職場の決まりとなれば、おかしいとも、疑問を投げかけることもせずに黙々と従う。その異常さに背筋が寒くなっていきます。とくに戦争になる危険を煽る目的で学校で行われた「避難訓練」。小学生に逃げて、隠れることを指導しても、どうすれば良いのか具体的には何も言っていない。埼玉では「ミサイルが飛んできたらどうすれば良いか？」の質問に「ヘルメットを被っていたら助かる」と教え、記事は「万が一あったら困るから、ヘルメットかぶって訓練をやるんだ」と答えたそうです。

そんなあやふやな話にも、県知事以下、役人が、教育委員会が校長や教員が黙々と従っていること、どこか寒々としたものが感じられ、本土決戦を前に竹槍で、一人一殺を教え込まれた80年前の女性や子どもたちの哀れさを感じると同時に、いまもこうした教育を受けている子どもが哀れさです。

大人たちはミサイルの飛来を、避難すれば安全とほんとに考えているのか、危機を煽る煽動宣伝だとわかっていながら仕方なく従っている教員。自分で考えてもおかしいと思うことをまるで踏み絵のように強要される、それに反対もしない、抵抗もしない、まさに教育の現場が今そういう理不尽な状況であることを見せつけられます。

映画は、アメリカがちょうど反共産主義の「赤狩り」が燃え上がった時期に重なります。そうした啓発宣伝がラジオ・テレビ番組などによって活発に、繰り返し行われていました。

今の日本ではマスメディアも、例えば「Jアラート」が発せられると、全局通常放送を止めて、その報道に従わなければならないと言うことを強要されています。いつの間にかそんな決まりができたのか、まさに改憲の眼目である「緊急事態条項」を先取りし、どんなことでも有無を言わず従わせる権力をやりたい放題、都合の良い意識の浸透、洗脳に努めているかのようです。



映画では、赤狩りの経過の中で、原爆の情報のスパイをしたと疑われた科学者ローゼンバーグ夫妻の死刑のラジオ中継がショッキングでした。夫妻の名前は聞いていましたが、どういう事件だったか詳しく知りませんでした。この裁判がどのように進められ死刑になったのか、調べ直し知りたいと思いました。戦争の準備を進めるためにあらゆることを利用する政治が、いつ自分たちにも振りかかってくるかを考えるために。

冷戦、赤狩り、反共プロパガンダ。いま、この国で「中国が攻めてくる」、「北朝鮮からミサイルが飛んでくる」と煽り、その備えのために軍備を拡張しなければという宣伝に利用している政権、自治体。80年前のアメリカを包んだ可笑しさ、恐ろしさがこの国にも起こりうる、すでに着々と進められていることをこの映画は教えてくれます。

資料③ 原爆・核実験・放射能汚染・内部被曝について考える映画・映像

広島長崎における原子爆弾の影響—長崎編— 1946年 84分 ドキュメンタリー 米国戦略爆撃調査団製作 日本映画社撮影
日本学術研究会議の原子爆弾災害調査研究特別委員会の学者たちによって行われた、原子爆弾の影響調査を記録したドキュメンタリー。爆撃から数日後の荒廃した街や被爆で苦しむ人々の姿など、2発の原子爆弾がもたらした悲劇をありのままに映し出す。1946年に完成しながらもアメリカによって没収され、内容が機密に触れるという理由からアメリカ国内での公開もされることがなく空軍基地に保管されていた“幻の原爆映画”が、65年の歳月を経て誕生。

完成当時の状態のまま鑑賞できる作品。

蜂の巣の子供たち 1948年 86分 清水宏監督

長崎の鐘 1950年 劇映画

原爆の子 1952年 97分 劇映画 新藤兼人監督

ひろしま 1953年 104分 劇映画 関川秀雄監督

広島にある高校。北川が受け持つ三年生のクラスで、生徒の大庭みち子が鼻血を出して倒れた。それは原爆による白血病が原因だった。このクラスでは、実に三分の一の生徒が被爆者だったのだ。あの日、ゆき子の姉は疎開作業中に被爆し、川の中で絶命した。遠藤幸夫の父親は、建物の下敷きになり炎に包まれた妻を助けることができなかった。8万人を超す広島市民がエキストラとして参加し、原爆投下直後の広島を再現した。ベルリン国際映画祭で長編劇映画賞を受賞した。

原爆の図 1953年 ドキュメンタリー 今井正+青山通春監督 丸木美術館

永遠なる平和を—原水爆の惨禍— 1954年 20分 ドキュメンタリー 日本映画新社

生きものの記録 1955年 113分 黒澤明監督

隠された被曝労働—日本の原爆労働者— 1995年 24分 テレビドキュメンタリー イギリス

無限の瞳 1955年 20分 ドキュメンタリー 成城高等学校生徒会

生きていてよかった 1956年

長崎の子 1956年 劇映画 木村莊十二

純愛物語 1957年 132分 今井正

世界は恐怖する—死の灰の正体 1957年 79分 亀井文夫

千羽鶴 1958年 67分 劇映画 木村莊十二監督

昭和三十年秋原爆症で死んだ佐々木禎子という少女の死を契機に、全国に起った「千羽鶴」の運動を主題とした映画。貞子はかけ足が得意で、歌もうまかったので、いつもクラスの人気者であった。その貞子が、急に入院した。原爆症一。貞子は輸血を受けたが、白血球は減る一方だ。卒業の日がきた。子供たちの発案で「団結の会」が出来た。貞子は同室の佳代という高校生から折鶴を見せられた。鶴を千羽折ると病気が治るといふ。貞子も友だちも千羽を目標に鶴を折り出した。

第五福竜丸 1959年 107分 劇映画 新藤兼人

二十四時間の情事 1959年 劇映画 アラン・レネ監督 ザジフィルム

その夜は忘れない 1962年 96分 劇映画 吉村公三郎監督

愛と死の記録 1966年 劇映画

千曲川絶唱 1967年 劇映画

原爆の圖 1967年 ドキュメンタリー 宮島義勇監督 丸木美術館

ヒロシマの証人 1968年 110分 劇映画 斎村和彦監督

ヒロシマ・原爆の記録 1970年 ドキュメンタリー 松川八州男監督 日本映画新社

人間であるために 1974年 100分 劇映画 高木一臣監督

はだしのゲン（第一部） 1976年 107分 劇映画 山田典吾監督 北星映画社配給

昭和20年4月、太平洋戦争も終わりの頃の広島。国民学校2年のゲンは、わんぱく盛りの男の子。ゲンの父・大吉は、日頃から戦争に批判的だったが、町内会の竹やり訓練の時「この戦争は間違ってる」と言ったために“非国民”とのしられ、特高警察に逮捕されて拷問を受けた。そのため大吉の家族に、米を売ってくれなくなり、“非国民の子”として、長男の浩二、姉の英子、ゲン、進次も周囲からいじめられるようになった。しかし浩二は“非国民”の重みをはね返すために予科練に志願、海軍航空隊に身を投じていった。そして8月6日、午前8時。

ふたりのイーダ 1976年 99分 劇映画 松山善三監督 翼プロダクション

ピカドン 1978年 10分 アニメーション 木下蓮三監督

1945年8月6日、午前8時15分、人々はその時の太陽の百倍の閃光を“ピカッ”と言い、続いて襲った衝撃波を“ドン”と呼んだ。原爆は今も多くの人々を苦しめ、その恐ろしさは計り知れない。当時の様子ができるだけ正確に再現したこの作品には、不幸な出来事が繰り返されないよう、平和への祈りが凝縮されている。この作品がきっかけで1985年広島国際アニメフェスティバルが実現した。広島原爆を初めてアニメーションで描いた作品である。

青葉学園物語 1981年 103分 劇映画 大澤豊監督

もし、この地球を愛するなら 1981年 26分 ドキュメンタリー テリー・ナッシュ監督

幻の全原爆フィルム日本人の手へ！ 悲劇の瞬間と37年目の対面

1982年 72分 熊谷博子監督

トビウオのぼうやはびょうきです 1982年 19分 アニメーション 板谷紀之

アトミック・カフェ 1982年 87分 ドキュメンタリー ケヴィン・ラファティ監督 ジェーン・ローダー監督 ピアーズ・ラファティ監督

米ソの原爆製造競争が激しかった当時、アメリカ政府は国民を安心させるために原爆PR用フィルムを製作した。原爆がいかに安全であるか、害のないものであるかをまじめに説いたこの映画は政府や軍部が国民に歴史に残る嘘をついたことを実証するものであったが、本作はこれをさらに編集し、ドキュメンタリーの要素を持つニシカルなパロディー映画にした。収録されている当時の映像には、放射能に関する大嘘や捏造された報道が溢れており、米政府が行った大衆操作の恐怖を物語る。

にんげんをかえせ 1982年 20分 ドキュメンタリー 橋祐典監督/子供たちに世界に被ばくの記録を送る会映画製作委員会

予言 1982年 41分 ドキュメンタリー 羽仁進監督 平和博物館を創る会配給

ヒロシマ・ナガサキ 核戦争がもたらすもの 1982年 46分 ドキュメンタリー 早川正美監督 岩波映像販売

歴史=核狂乱の時代 1983年 116分 ドキュメンタリー 羽仁進監督 被ばくの記録を送る会

せんせい 1983年 103分 劇映画 大澤豊

この子を残して 1983年 劇映画

はだしのゲン 1983年 アニメーション 真崎守監督 茨城映画センター配給

おくりじそ 1983年 アニメーション 板谷紀之監督 翼プロダクション

白い町ヒロシマ 1985年 103分ドキュメンタリー山田典吾監督

24000年の箱船 1986年 33分 ドキュメンタリー高橋一郎監督

風が吹くとき 1986年 81分 アニメーション ジェームズ・T・ムラカミ監督 イギリス映画

SOSこちら地球 1987年 62分 人形アニメーション 河野秋和監督

もうひとつのヒロシマ アリランの歌 1987年 58分 ドキュメンタリー 朴壽南監督

さくら隊散る 1988年 110分 劇映画+ドキュメンタリー 新藤兼人監督

夏服の少女たち ヒロシマ・昭和20年8月6日 1988年 30分 アニメーション

HELLFIRE:劫火—ヒロシマからの旅— 1988年 58分 ドキュメンタリー ジャン・ユンカーマン

TOMORROW 明日 1988年 105分 劇映画 黒木和雄監督

1945年8月8日の長崎で、一組の結婚式が行われようとしていた。花嫁は看護婦のヤエ、花婿は工員の中山庄治。戦時下ゆえ、いつ空襲になるかわからないこともあり、つつましくかに執り行われた。写真を撮り終えたところで姉のツル子が陣痛を訴えた。ツル子の家には産婆がやってきて、「産まれるのは夜になるだろう」と言う。母、ツイはツル子のために小豆をお手玉から取り出して煮て食べさせてやった。ヤエの妹、昭子は恋人英雄に赤紙が来たことを知らされる。誰もが明日に向かって精いっぱい生きていた。そして8月9日の朝...

千羽づる 1989年 96分 劇映画 神山征二郎監督

黒い雨 1989年 13分 劇映画 今村昌平監督

昭和20年8月6日、広島に原爆が投下された。その時郊外の疎開先にいた高丸矢須子は叔父、閑間重松の元へ行くため瀬戸内海を渡っていたが、途中で黒い雨を浴びてしまった。20歳の夏の出来事だった。5年後矢須子は重松とシゲ子夫妻の家に引き取られ、重松の母、キントと4人で福山市小島村で暮らしていた。地主の重松は先祖代々の土地を切り売りしつつ、同じ被爆者で幼なじみの庄吉、好太郎と原爆病に効くという鯉の養殖を始め、毎日釣りしながら過ごしていた。村では皆が戦争の傷跡を引きずっていた。

ながさきのこま 1989年 27分 アニメーション 河野昭和

ヒロシマ 母たちの祈り 1990年 30分 ドキュメンタリー 小笠原基生

八月の狂詩曲（ラブソデー） 1991年 劇映画 黒澤明監督

ヒロシマが消えた日～人類最大のあやまち・原爆～ 1994年 77分 ドキュメンタリー ドキュメンタリー工房製作

引き裂かれた長崎～人類最大のあやまち・原爆～ 1994年 75分 ドキュメンタリー ドキュメンタリー工房製作

原発導入のシナリオ～冷戦下の対日原子力政策～ 1994年 44分 テレビドキュメンタリー 東野真

資料③ 原爆・核実験・放射能汚染・内部被曝について考える映画・映像

あの日 この校舎で一五十年前に被爆したナガサキの記憶ー 1996年 30分 ドキュメンタリー 吉川透監督

はとよひろしまの空を 1999年 21分 アニメーション 矢吹公郎

H story 2001年 諏訪敦彦監督 東京テアトル配給

核のない21世紀を ヒロシマからのメッセージ 2000年 60分
ドキュメンタリー 片桐直樹監督

太陽をなくした日 2002年17分

父と暮らせば 2004年 黒木和雄監督 パル企画

The Last Atomic Bomb (最後の原爆) 2005年 92分 ドキュメンタリー ロバート・リクター

夕凧の街 桜の国 2007年 118分 劇映画 佐々部清

ヒロシマナガサキ 2007年 86分 ドキュメンタリー スティーブン・オカザキ監督

フラッシュ・オブ・ホープ 世界を航海するヒバクシャたち 61分
2009年 エリカ・パニャレロ監督

ヒロシマ・ピョンヤン 捨てられた被爆者 2009年90分 ドキュメンタリー 伊藤孝司監督

アトミック・맘 2010年 87分 ドキュメンタリー M・T・シルビア監督

二重被曝 語り部・山口の遺言 2011年 68分 ドキュメンタリー 稲塚秀孝監督

棄てられたヒバク〜証言・被災漁船の50年目の真実〜 2011年
57分 テレビドキュメンタリー 伊東英朗ディレクター
シグロ、ザジフィルムズ

ニュークリア・サベージ 2011年 87分 ドキュメンタリー アダム・ジョナス・ホロヴィッツ

はだしのゲンが見たヒロシマ 2011年 77分 ドキュメンタリー 石田優子監督

漫画家、中沢啓治が自身の生い立ち、広島での被爆体験から『はだしのゲン』を描くまでの半生を語る。広島市内の思い出の土地を辿りながら証言、貴重な原画とともに決して忘れてはならない戦争と原爆の姿を見つめる。「私という被写体を通して戦争と核のない世界が少しでも近づけばいいと思っています。」「漫画で原爆をとっちめてやる。」中沢さんが渾身の力を込めて、子どもたちへ贈る永遠の平和へのメッセージ。

放射線を浴びたX年後 2012年 83分 伊東英朗監督
1954年のビキニ水爆実験。当時、多くの日本の漁船が同じ海で操業していたにもかかわらず、第五福龍丸以外の被ばくは、人々の記憶や歴史からも消し去られていった。闇に葬られようとしていたその重大事件に光をあてたのは、地道な調査を続けた教師や高校生達。その足跡を丹念にたどる8年にわたる長期取材の中で、明らかになっていく船員たちの衝撃的なその後…。2015年『放射線を浴びた[X年後]2』(86分)も完成。

未来へのメッセージ 神奈川のヒバクシャが伝えたいこと 2012年 21分 近藤正典監督

ブラジルに生きるヒバクシャ 2012年 78分 ドキュメンタリー ロベルトフェルナンデス監督

アオギリに託して 2013年 120分 劇映画 中村健斗監督

原爆症認定集団訴訟の記録 おりづる 2013年 ドキュメンタリー 有原誠治監督

放射線を浴びたX年後II 2015年 86分 伊東英朗監督

一歩でも二歩でも 2015年 54分 ドキュメンタリー 有原誠治監督

ヒロシマそしてフクシマ 2015年 80分 ドキュメンタリー マルク・ブティジャン監督

フランス人監督が追う肥田舜太郎医師96歳最後の闘い。肥田舜太郎医師のことを話す時、誰もが「肥田先生」と親しみと尊敬を込めて呼びます。肥田先生は原爆投下の1945年8月6日以来、若い軍医としてずっと広島で被爆者の治療にあたりました。そのうち、この日広島にいないで爆撃を直接身に受けなかった人々が、後になって突然発病し、被爆者と同じ症状を示して死んで行くという例を数多く目撃しました。それが内部被曝によるものであることを突きとめた先生は、それまで知られなかった内部被曝というものの脅威を世界に向けて訴え続けてきました。

この世界の片隅に 2016年 126分 アニメーション 片淵須直監督
1944年広島。18歳のすずは、顔も見たことのない若者と結婚し、生まれ育った江波から20キロメートル離れた呉へとやってくる。それまで得意な絵を描いてばかりだった彼女は、一転して一家を支える主婦に。工夫を凝らしながら食糧難を乗り越え、毎日の食卓を作り出す。やがて戦争は激しくなり、日本海軍の要となっている呉はアメリカ軍によるすさまじい空襲にさらされ、数多くの軍艦が燃え上がり、町並みも破壊されていく。そんな状況でも懸命に生きていくすずだったが、ついに1945年8月を迎える。

広島原爆 魂の撮影メモ ~映画カメラマン 鈴木喜代治の記した広島 2016年 29分 ドキュメンタリー 能勢広監督

いしづみ 2016年 85分 ドキュメンタリー 是枝裕和監督
碑(いしづみ)に刻まれた旧制・広島二中の一年生321人幼くしてこの世を去った彼らが最期に残した言葉とは一昭和20年8月6日は、朝から暑い夏の日でした。この日、広島二中の一年生は、建物解体作業のため、朝早くから本川の土手に集まっていました。端から、1、2、3、4・・・と点呼を終えたその時でした。500メートル先の上空で爆発した原子爆弾が彼らの未来を一瞬にして奪ったのです。少年たちは、元気だった最後の瞬間、落ちてくる原子爆弾を見つめていました。あの日、少年たちに何が起こったのでしょうか…。

いのちの岐路に立つ 核を抱きしめた日本 2017年 110分 原村政樹監督

あの福島第一原発事故から6年。避難地域の解除が進み中、放射能の「緩慢なる脅威」がひろがり、原発崩壊が故郷崩壊に連鎖していく。「唯一の被爆国」を喧伝して敗戦72年を迎えた。ヒロシマ・ナガサキの被爆死者214,000人。ビキニ水爆実験による船員たちの被爆、原発労働者の被曝がつづく。なぜ、原発再稼働にこだわり、核による厄災を繰り返すのか。今や放射線危険管理区域マークが日本列島におおいかぶさっている。保守・革新やイデオロギー、老若男女を問わず、誰もが「いのちの岐路」に立っている。

いしづみ 2016年 85分 ドキュメンタリー 是枝裕和監督
碑(いしづみ)に刻まれた旧制・広島二中の一年生321人幼くしてこの世を去った彼らが最期に残した言葉とは一昭和20年8月6日は、朝から暑い夏の日でした。この日、広島二中の一年生は、建物解体作業のため、朝早くから本川の土手に集まっていました。端から、1、2、3、4・・・と点呼を終えたその時でした。500メートル先の上空で爆発した原子爆弾が彼らの未来を一瞬にして奪ったのです。少年たちは、元気だった最後の瞬間、落ちてくる原子爆弾を見つめていました。あの日、少年たちに何が起こったのでしょうか…。

ピース・ゲーム 1977年 5分30秒 アニメーション イシュ・パテル監督 (カナダ映画)

西から昇った太陽 2018年 75分 ドキュメンタリー・アニメーション キース・レイミルグ監督

1954年3月1日、第五福龍丸の乗組員たちは太平洋上で巨大な水爆実験を目撃した。「西から太陽が昇ったぞ!」。映画「西から昇った太陽」は、水爆実験に遭遇するという怖ろしい出来事が漁師たちにもたらした苦悩と人生の困難を、当時を体験した乗組員3名のインタビューと1000枚を超えるイラストによるストップモーションアニメで再現した。製作チームは体験者の生の声を映像化することを目指した。イラストとCGの独特な味わいと、静かな語りから悲しみが立ち昇る、アメリカの若手作家たちが、新しい第五福龍丸の物語を創りあげた。

ヒロシマナガサキ最後の二重被爆者 2019年 90分 ドキュメンタリー 稲塚秀孝監督

1945年8月6日、9日。広島と長崎に投下された原子爆弾を、両市で被爆した山口亘さんに迫ったドキュメンタリー。二度の被爆を世界に伝え「人間の世界に核はあってはならない」と核廃絶を訴え、国際連合、長崎市内で活動を続け、2010年1月、93歳で生涯を終えた山口さんを描いた。それから8年、14歳の夏、広島で被爆し、弟と共に避難列車で、故郷長崎に向かい、二度被爆をした福井絹代さんと弟の国義さんの過酷な人生とさらに長崎に住む2名の二重被爆者。そして故山口亘さんの“遺志”を受け継いだ娘、孫、ひ孫の3代に渡る“継承”を描く。

サイレントフォールアウト 乳歯検査が語る大陸汚染 2023年 81分 伊東英朗監督

1951年からアメリカ国内で始まった核実験は928回に及んだ。核実験によって生まれた膨大な量の放射性物質は、アメリカ各地に運ばれ、地上を汚染し続けた。アメリカ原子力委員会は、放射性物質が全米の牛乳を強く汚染していることを把握していたが、国民に知らせなかった。1950年代半、大陸が放射能汚染していることを国民は徐々に知ることとなり、とくに放射能汚染の影響が強いとされるセントルイスで女性を中心とした大きな動きが生まれる。「乳歯調査」と呼ばれる市民運動だった。

長崎の郵便配達 2021年97分 ドキュメンタリー 川瀬美香監督
戦時中にイギリス空軍の英雄となり、退官後は英国王室に仕えたピーター・タウンゼント大佐。彼は、長崎で被ばくした少年、谷口稜嘩さんを取材し、1984年にノンフィクション小説「THE POSTMAN OF NAGASAKI」を発表する。谷口さんは16歳の時に郵便配達中に被ばくし、その後生涯をかけて核廃絶を世界に訴え続けた。映画ではタウンゼント大佐の娘で女優のイザベル・タウンゼントが2018年に長崎を訪れ、著書とボイスメモを頼りに父と谷口さんの思いをひも解いていく姿を追う。

*被爆者の声をうけつぐ映画祭実行委員会発行「被爆者の声をうけつぐ映画祭のすすめ」を参考にさせていただきました。
*作品の解説が入っているものは「憲法を考える映画のリスト」2024年版の作品解説から転載しました。

資料④ 「憲法映画祭2024」湯本雅典さんのお話（1）



第75回「憲法を考える映画の会」は、2024年4月29日、武蔵野公会堂ホールで行われ、300人を超える方に参加して頂きました。

当日のプログラムは、
『ヤジと民主』
『しではら』
『戦争のつくりかた』
『荒野に希望の灯をともし』
『ミサイル基地がやってきた島で生きる』
『サイレント・フォールアウト 乳歯が語る大陸汚染』

映画の後、『ミサイル基地がやってきた島で生きる』を作られた湯本雅典さんと『サイレント・フォールアウト 乳歯が語る大陸汚染』を作られた伊東英朗さんにそれぞれ映画を作られた思いや製作の背景についてお話をいただきました。

湯本雅典さんのお話

みなさんこんにちは。「島で生きる」見ていただきまして本当にありがとうございます。この映画を制作しました横浜から来ました湯本雅典と申します。少し補足の話させてください。あの資料の中に一枚 沖縄タイムスと八重山毎日新聞という地域紙なんですけどそのコピーを入れさせていただいたんですけどもごめいすでしょうかね。

一番最初のシーンが1/3ぐらいが、住民投票のお話で5年間続けてきていて、今も続いています。今、最高裁に向けて頑張ってるんですけども、先月ですね、この映画にはなかったんですけども2つ目の裁判の当事者訴訟の控訴審、高等裁判所の判決が那覇福岡高裁那覇支部、那覇にあるんですけどそこで出ました。3月の12日ですね。一言で言うと全部棄却。却下、棄却、棄却と来ているわけなんですけど、全部理由が違うんですよ。根拠が違うんですね、裁判の。ひとつ例を挙げるとひとつ前の裁判、これ映画の中にもありましたけども、当事者訴訟の那覇の地方裁判所の判決が昨年の5月に出了んですけど、その理由は住民投票所、住民投票自治基本条例というのが石垣島にはあるんですけども、その中の住民投票条項っていうのを与党の多数でたった1日で削除してしまうっていうすごいことがやられたんですね。で、現在は住民投票条項がないんです。それを理由にしてるんですね。

しかしあの金城龍太郎さんたちは住民投票条項があったから直接請求の署名運動を始めたわけですよ、それが2018年なんですけど。それがなければ当然そういう運動しなかったわけは私たちに、このこの自治基本条例に基づいて私たちに投票する権利が、もしこの署名を集め切れればあるんですね、っていう確認する裁判だったんですけど、今、もう、その住民自治条項がないからあなたがたには、投票する権利はないっていう結論なんですよ、これ自体が1つ前の裁判なんですけども、法学部の学生さんたちが1年生の時に大学です、最初に習うことらしいですね。法律というのは今から法律ができてから今から未来に向かってあるものであって、過去に遡ってあるものではないと不遡及の原則っていうらしいんですけど。

これをですね、それが面白いことにですね。龍太郎くんがパロディーだって言っていましたけど、先月の3月12日の高裁では一切、根拠になってないんですよ。一切根拠になってなくて別の根拠が持ってこられていてその別の根拠っていうのがコピーにあるんですけど、それは何かというとこれすごく簡単な地方公共団体は間接民主制だからって言うんですよ。

僕でもわかったのは、じゃあ首長さんというのは直接選ぶんじゃないのかなって、そうですね、直接選ぶんですよ、首長さんって。市長とか、町長は、じゃあそれおかしいじゃないかってなんですけど、間接民主制が基本だから、議会で全て決めるんだ、なので、あなた方には、議会で決めて否決されてるわけだから住民投票はやることを実施することはできないっていうそういう風な持ってき方してるんです。そういう理由を持ってきて、全然違う理由を持ってきて、で今最高裁で、こういうこの事件って、僕は事件と呼んできますけど、全く本土の方にはこのニュースが流れないので皆さん、ほとんど、ここにおられる方、初めて聞いた方だと思んですけど、僕はこれ大事件だと思っでいて、と言いますのはあの今「地方自治法」って法律が国会にかかってますよね。で、あの3月の中旬に閣議決定してこれから審議されます。で、その中身というのはいろんな、例えば災害とかいろんな そのまあ、感染症とかが流行った時に、地方公共団体っていうのは、国の、こういう言葉使ってませんけども、国の指示に従って、そういう風に改正していくという そういう中身なんですけど、これが今の国会にかかってます。

そういうこととも、重ね合わせると地方自治、1990年ぐらいから「地方分権」というこの4文字がもう流行ってきてますよね。国と、地方公共団体は同格なんだと、そのような雰囲気というか、そのような流行がどんどん進んできているなかで、それを後退させるような流れが一方にあって、それを背景としてあるということで、それはおおほけ(?)じゃないかと思うんですね。これをなかなかマスコミは、ニュースということで、あの東京新聞なんかでも扱ってくれないなと思うんですけど、ちょっとそういうことで僕はこれを作った映画を作ったひとつの動機にもなってるんですけど是非皆様にもちょっと心の隅に置いていただければなというふうに思っています。(7:18)

で、あの、石垣島で起きてること、いろんなこと見ていただきましたけど、背景に国の国防政策の増強っていうのは当然あるわけで、3日ぐらい前ですか GDP 比 1.6になりましたよね。去年が1.3ぐらいだったんですね。パーセントです。今1.6%になっている中国が今、ちょっと計り方が違うので、直接比較ができないかもしれないんですけど中国は1.6か1.7%って言われていますので、日本は追いつくんですよ、もうばちばち。

そしてこれまだ先に進んで2%まで持って行こうとしてるって言うことで、こういうことも背景になっているから石垣島まで、僕、実際 東京から飛行機で行ってですね。取材して戻ってくるといつも感じるの、すごく回転が早い、スピードが早い、どんどん動いていくというですね。そういう中にあの人口5万人の石垣島の方々が翻弄されるっていうですね。状況を目の前に見て、戻ってくるわけなんですけど、そういうことを何とか記録に留めておきたいなと思っでこの映画を作りました。

もうひとつお伝えしておきたいのは、僕がこの映画を作った最初はさっき言ったようになかなか本土に報道されないっていうことがあって、伝えたいなという気持ちだったんですけど、今はちょっと違って来てですね、とくに住民投票やっておられる皆さんの運動とか、あるいは粘り強い市議会議員とか市民の運動なんかを見てるとですね、僕自身が一体何やってんだらうなっていうことを身に詰まるといって、すごく感じるようになって自分自身が住んでいる 町や 身近なところの民主主義っていうのは一体どうなったのかなんかということを ほんまにかこう 真剣に考えるようになったって言うか、映画をつくることによってそのおかげです。

昨日ですか 選挙がありましたし、今年ね都知事選挙もありますしね。選挙だけじゃなくて民主主義、自分の身の回り、民主主義ってどこまで来てんのかなんかということを実際に考えるように、真剣に、より真面目に考えるようになったって言うことで是非この映画を見ていただいた そういう気持ちになっていただければなというふうに思っております。(次ページに続く)

資料④ 第75回映画の会「憲法映画祭2024（2024/4/29）湯本さんのお話（2）」



（前ページから続く）で、あの入り口で、ロビーで、この映画とそれから私がこれまで作ってきた沖縄の映画、今日は4本持ってきますけども、今日の映画もこれ1本 2000円でお分けしております。税込みでしかもあの上映権付きです。是非、上映して頂いてかまいませんので。コロナの頃からなかなか実施上映会ができなかったので入口というか、パンフレットの中に収まっているかもしれませんが、「上映屋」という取り組みやってみて、もし自主上映会やりたいんだだけでも、来てくれませんか、機械も持って行きますので しかも1本 DVD 買っていただければ謝礼はいらないので、DVD買って下さい。と言うことで、そういう取り組みやってみますので、徐々に、三上監督の戦雲（いくさむむ）ほどでは、その足元にも及びませんが、少しずつ広げていきたいなというふうに思っておりますのでよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

司会：ちょっとだけ時間があるのでもし何か質問とかあればよろしいでしょうか。

質問者①：こんにちは、武蔵野市で無所属の議員やってる山本ひとみです。今日住民投票の話が中心なので、これは是非見たいと思っております、大変なんか石垣島で、若い方が中心でおやりになることに感銘を受けました。今日は皆さんにちょっと武蔵野の住民投票条例のことをお伝えしたいのでよろしいですか？ 武蔵野市って住民投票条例は2年半ほど前に議会で賛成が少なくて負けたんです、この前市長選挙で住民投票を凍結したいという人が市長になったんで、議論を凍結するという状況になって、選挙と私は住民投票は別だと思っていて、直接民主主義としての住民投票は出してたと思ってるんですが、あの武蔵野の選挙（？）もちょっと私は憂慮しています。質問としてはやっぱり石垣でああ若い方達が熱心に取り組まれているっていうのは周りを見てもね、いいなと思うんですけども、それはどういうところがあの背景にあると思われるのか、背景に若い方がね、熱心に持ち込まれてる、入っててどういうところだと思われませんか？（13：05）

湯本：そこが一番伝えたかったって言うか、一番魅了したから石垣に通ったってことでもあるんですけど、一言で言うと一番最初に、彼が周囲の中で、僕は質問した答で「何でやってるの？」って聞いたら「戦争マリアアとか、そういう沖縄戦があったからじゃないんです。石垣島が人口5万人の小さな石垣島が真二つになって生活がしにくくなるのがどうしても嫌だから、小の取り組みをやってみた。ちょうどですね、辺野古県民投票ってこの時期だったんですよ。辺野古県民投票で、沖縄の本島の方で、やってたときに辺野古県民投票の宣伝って言いますかね、それで石垣島に来た元山さん、仁土郎さんたちがですね、

あ、彼らと知り合ってそれでこういう方法があるのかって、いうことを金城龍太郎君たちが知ってますね、それで僕たちもやってみよう、そういう短絡的なことかどうかわかんないですけど、そういう影響もあったと思います。

あと条文ですね、自治基本条例の条文、あの武蔵野市の自治基本条例 2020年にできたのは自治基本条例があって、条例を別に定めるなんですよ、武蔵野市の場合は。別に定める、だから定める必要性があるから 松下市長は定めるための事務手続きをしたってだけの話だと思うんですけど。石垣の自治基本条例 っていうのは別に定めるっていう条文ではなくてですね「四分の一集めれば、市長は一定の手続きを踏まえて、住民投票を実施しなければならぬ」というそういう文章なんです。この文章、みなさま聞いてどう思われます？ どう考えたって1/4 集まったら、市長はその義務を追うっていう風になりませんか。どう見ても、条例とか法律っていうのは義務教育を終えた人がわかるものじゃないかと思うんですよ。それをなんかぐちゃぐちゃぐちゃぐちゃ言ってですね、これは違う意味だとか、別の解釈をするなんて、憲法9条みたいですね。そういうことしちゃいけないと思うんですよ。それをやっちゃってるわけですよ。石垣市は結局市議会にかけたとか、かけるのは自由ですよ。かけても実施しなきゃいけないんですよ。否決されてもね。それを彼らは実施しなかった、そういうことですね。

だからふたつ目のモチベーションって言うのは、それで否定されたからだって言ってましたね。自分のやった行為を、努力を。だからこのまま引き下がるわけにいかないとあと責任感ということも言ってますよね。（16：28）

質問者②：この民主主義の問題って言うのは、私75の人間ですけども、本当にひどくなってると思います。でもそれは昨日ですね、たまたまあの外環2を止めよう会でえっと何人だったかな、そんなにたくさん集まらなかったけど、6人ぐらいですけど、石神井公園のところを歩いてチラシを配りながら、今ここでもうどどん行政が事業認可してっちゃってるんですね。私の住んでる上石神井のあたりが一番早く、それはあの今の区長がですね、もう3期目が4期目かな、まだあと2年いるらしいですけど、もう自分の花火をあげるねことばかりやって、私たちがその道路問題で決まった時に彼が区長に話したいって言ったら蹴って、そのくせ、あのいろんなところで住民と対話するなんて言って、とんでもないほとんど自分で進める っていう状況なんですけど、あの考えてみたらその幟旗（のぼりばた）を持ってね、だって「外環止めよう練馬の会」っていうね、その普通のその主張があるからチラシも配ればみんな周りの人たちがそれを見た っていうのやってんだなって、そしてら都の職員らしいんですけど、公園を管理してる、ちょうど三宝寺の方でしたけど、ちゃんと申請出さないとこういう集会みたいな、デモみたいなのはダメなんだと、考えてみると今、学歴詐欺で騒がれてる小池都知事が日比谷公園から、昔私の学生時代はあそこから出発が多かったんデモ。それを無くしちゃったあたりからね、おかしくなってるしそれから、あの国の方では、閣議決定ばかりで、そういうのやっぱ国会にかけなくちゃいけないのに、なんかだからみんなおかしいものはおかしいって言っていかないとダメなんじゃないかな。ずるずるずるずると、さっき言った地方と国の法律とか対等なはずなのに変えられていくとかね。私は本当にもう生きてるのが嫌になっちゃうぐらい 本当にもう変わっちゃったなと思っております。はい以上です。ありがとうございました。でも昨日ですね。選挙で3つ勝ちましたんで、それを踏まえて次はこう政策をとっていく、総選挙に向けてですね、やっぱ準備進めていくってことかなというふうに思います。

伊東英朗さんのお話

みなさんどうもこんにちは。きょうはありがとうございました。最後までご覧いただいて本当に嬉しいです。ありがとうございます。僕は愛媛からやってきました。実はおととい三浦市で上映があって、昨日横浜市で上映があって、今日東京で上映をしていただいていたお話をさせていただくことになってます。20分間ということ頂いてますので、最後までもしお付き合いいただけたら嬉しいです。よろしくお祈りします。

一番後ろで見ながら20分で何をお話ししようかなと思って考えてたんですけど、あの実はですね、この映画のサブテーマがあります。放射能の問題 描いてるんですけどもサブテーマですね、実は「女性の行動が世界を変える、社会を変える」というのがこの映画のサブテーマになってます。サブテーマなんですけども僕の中ではかなりメインテーマに近いぐらいの思いがあります。で、ですね、あの当時、あの映画見ていただいた通り、ルイズ・ライスさんという女性が中心になってケネディ大統領を動かしてで大気圏内核実験を中止させました。これちょっと仮定の話なんですけども、1963年にあのケネディ大統領が決断をした1か月後に殺害されてしまったんですけども、1963年にもし、ケネディ大統領がああ決断をしなかったとします。地下核実験が828回行われました。828回の地下核実験がもし万が一、大気圏内核実験だったら、地上で行われてたらどうなっていたでしょうか。おそらく、というか間違いなく、アメリカ大陸は人が住めない場所になってました。ですからこのルイズさんたち女性が行動を起こしたことというのは本当にまさにアメリカ大陸を救った大変な偉業だったんです。そのことをアメリカの人たちに伝えたいと思ってこの映画を作りました。ですから国内で上映する予定っての僕の中で全くなくて、でもこうやって上映していただくことは、本当に嬉しいことなんですけども、基本的にはアメリカで上映するために作りました。ですからあのほとんど英語だったと思うので、多分見るのも大変だったかと思いますが まあそういう目的でこの映画を作りました。で、ですね 1950年代 60年代、あの乳歯プロジェクトのデータ、資料ですね、2800ページ入手して全部翻訳して読み解いた中でびっくりしたことがありました。あの当時ですね、女性というのは本当に人権がなかったんです。ルイズ・ライスさんというのはあの医師でしたから、あの文章の中にも、ドクター ルイズ・ライスって名前書いてたんですけども、あの当時の文書に女性の名前は書かれませんでした。どういう風に書かれたかということ、ただ僕だった 伊藤英朗なんですけども、男の名前がまずあります。伊藤英朗、その後ろに「その妻」と書かれてるんです。ですから女性というのは男の持ち物だったんです。そんな時代にあって女性たちが行動を起こして、そしてケネディ大統領を動かした、大統領を動かした、これ本当に大変なことだったんです。そのことをアメリカの人たちも知ってもらいたいと思います。そして今の日本の人たちも、ほんと、まさに女性たちの行動が社会・世界を変えるんだってことを知ってもらおうというか、改めて考えてもらいたいと思います。あの当時のあの言葉の中に女性の活動家の言葉の中にですね、男たちは政治というチェスをやってると、女たちは叫び声をあげて行動を起こすという風に言ってます。本当に政治というものをチェスという考え方で考えていくと例えば核兵器というのは当然ですけどチェスという考え方で言うと持たないといけないんです。彼らが言うのは、ロシア、どうですか危ないじゃないですか、北朝鮮どうですか危ないじゃないですか、中国持ってますよ。日本持つかかないとどうするんですか、と。抑止を効かせないとダメじゃないですか。首相が集まった会議の中でも、核兵器持っていないと発言力弱いじゃないですか。核兵器は持つべきです。これが平和なんです。必ず言うんです。

でも女性の視点で考えてください。命と平和、それを考えていくとその論理というのは破綻してきます。このことを多くの方に知ってもらいたいと改めて考えてもらいたいという思いがこの映画の中にあります。とくにアメリカです。アメリカの人たちはこの放射能汚染のことをほとんど知らないんです。

自分たちが被爆してることをほとんど知らないんです。ですからアメリカの上映、去年から始めてますけれども、必ず言うのは皆さん、あなたたちは他人ごとじゃないですよ、当事者ですよ、被爆者ですよ 被爆者だという当事者意識を持ってこの問題考えてください。広島、長崎だって太平洋核実験だって、福島だって皆さん同じ被爆者ですよ、被爆者として考えてくださいという風に伝えていきます。アメリカの人達っていうのは映画を上映する時っていうのは僕一番後ろで見てるんです。日本だとずっと例えばコックリコックリしてる人たちもいたりするんですけど、アメリカの場合、本当に皆さんも微動だにしないで見てます。それは当事者意識がものすごく刺激されるんだと思います。自分たちが知らなかった事実をそこで明らかになることによって、みんな驚いてるんだと思います。で、その後、僕はそういう風な語りかけをしています。で、何を語りかけていくかということをやっと皆さんにお伝えしたいんですけども、先ほど言ったようにまず最初に一言目言うのは「皆さん、当事者ですと被爆者ですと、これをまず確認してください」ということです。それからもうひとつは、これアメリカの人たち、皆さん、アメリカの人たちとだしたらですね こんな風にあります。「皆さんは核兵器を持っていますよね、核兵器を持ってるから世界で最も強い国だ」という風に言われてます。ただその核兵器を作るために皆さんの、皆さん自身や、皆さんの子供や妻や夫や親戚や友達や両親やみんな、被爆させられてます。もしかしたら癌で亡くなって人もいるかもしれない。命と健康を脅かされてます。核兵器っていったい誰のためのものなんですか、教えてください。誰を守るんですか？何を抑止するんですか？アメリカ国民を守るためじゃないんですか？アメリカ国民の命や健康を奪って作ったものって、これ一体誰のためのものなんですか？教えてください」という風に言ってます。で、もし答えられないんだしたら皆さん1回議論してもらえませんか、ということをやっています。僕、アメリカで、アメリカの人たちにすごく期待してます。彼らはイスノーははっきりします 例えば 庭の庭の真ん中に大きな立て看板して「バイデン大嫌い」とかですね。「トランプ大好き」とかですね。大きな看板付けたりする人、いっぱいいます。自分の主張をはっきりします。そういう人たちに僕は期待をしたいんです。でももしかしたらですね。中には「いいんだ」と「俺の命だって、俺の子供の命だって、妻の命だって、核兵器のために差し出すんだ」という人がいれば、それはしょうがないです。アメリカの人たちが考えればいいことなので。僕はそれに対して反対っていう立場ではなくて事実を突きつけています。その中で、議会、是非議会で議論してほしいという風に考えてます。アメリカ議会でこの問題を一度議論して改めて「核兵器っていったい何なんですか」と、「放射能っていったい何なんですか」ということを議論して欲しいと思っています。

ひとつアメリカの中ですごくチャンスがあるのは、映画でご覧になった通り風下地区というところがあります。そこはアメリカ政府が核兵器による被爆者がいるという風に認めて保証もしています。これが僕にとってのすごく大きなチャンスなんです。そこがそこを認めて保証するんだしたらあのミラーさんの地図を見てくださると、全域が風下地区じゃないんですかと。全域の人たちを認めて保証してくださいという風に言いたいし、そう考えて欲しいと思っています。アメリカの人たちには声を上げてほしいと思っています。この流れなので、僕、アメリカでやりたいことをお話したいんですけど、一つは7月の16日、7月16日っていうのはオッペンハイマーが初めて原子爆弾を作ったその日です。

資料⑥ 第75回映画の会「憲法映画祭2024（2024/4/29）伊東さんのお話（2）

その日、ワシントン大学にあるアメリカン大学というところを皮切りに40日間の上映ツアーをやります。北米上映ツアーです。まず東海岸を回って、そして西海岸に移って20カ所以上で上映をするつもりです。そこでできるだけ多くの人に見てもらって、できるだけ多くのメディアに取り上げてもらって、アメリカでアメリカの世論を刺激したいと思っています。でも多分ちょこっとだと思えます。だからこれから何回も何回もやっていかないといけないと思うんです。日本人がいて。だから例えば映画サイトですら、質問があります。「何で日本人がそんなこと言うんだ」と。確かにそう違和感もあると思うんです。でもそれを諦めないで何度も何度もそういうツアーをやっているってまず世論を作っていく。先ほどちょっと言いましたが、その世論というのが議会につながるかどうかということがすごく大きい問題です。ですから今、僕はできるかどうか分からないんですけど、例えばロバートケネディ大統領候補にも今、アプローチをしています。知り合いを通してアプローチをしています。それから上院議員、下院議員にもアプローチをしています。僕自身も直接、議員にアプローチをしています。

そしてもう1つ、3つ目なんですけども、どうしてもやりたいことがあります。それは何かというとSDGsにこの問題を盛り込むということです。放射能の問題というのは世界で最も大きな環境破壊なんです。CO₂も大事ですよ、もちろんですけども緊急性が高いのは環境汚染なんです。これは本当に緊急を要します。で、ちょっとすいません、話ちょっと変わりますが、皆さん、ちょっと言うのは酷い話なんですけど、皆さん映画見られて、アメリカ大変だなと、被爆して大変だなと思われたと思います。実際ですら、僕は2年前に47日取材をした時に、線量計を持って行きました。知り合いの専門家の人にできるだけ正確な線量計教えてくださいということで、線量計、まあまあ高かったんですけど買って持って行きました。常時測ってました。アメリカ大陸っていうのは基準値を超えています。ですから癌になる可能リスクを背負ってるといことです。アメリカ大陸そのものが。そこに住んでるといことがですね。じゃあ日本はどうなのかということなんですけど結論から言うと残念ですが、アメリカの数倍というか、もっと高い放射能汚染をしているのがこの日本です。その理由をお話ししますが、なんでそうなるかというと1963年ケネディ大統領が大気圏内核実験を中止する宣言をしました。それに批准したのがアメリカもちろんですが、イギリスとソビエトです。今のロシアです。この三国が批准しました。それによって1963年に大気圏内核実験がその3国の大気圏の核実験が中止しました。で残念ですが中国は批准しなかったんです。その翌年から大気圏内核実験を始めましたで1980年まで大気圏内核実験をやりました。日本というのは先ほどブルームの広がりを見ていただいたとおりです。太平洋であった放射性物質というのは、西と東に広がって日本列島、実はあれ日本列島もっとも覆われてるんですけども、あの後もうちょっと続けるとですね日本列島というのは放射能汚染をずっとずっと続けてました。太平洋の核実験で、それからロシアの核実験によっても被爆をしています。ちなみにですけどブラボーションっていうのが1954年昭和29年3月1日に太平洋で爆発しました。水爆ブラボーションって皆さん聞いたことあると思うんですけど、第五福竜丸という船が被爆したというふうに言われている水爆ですけども、水爆っていうのは広島型原爆1000個分の破壊力があります。映画の中にも出てきたと思います。ロシアのロシアが作った最も大きな水爆チャーリーボンバーっていうのがあるんですけど、これは広島型原爆の3600倍ぐらいあるんじゃないかという風に言われています。

とてつもないような水爆をロシアは実験で爆発させてます。そういうのが残念ですが、隣国の日本にフォールアウトしてきてるといことです。でちょっと今日お見せできないなら残念なんですけども、いつも見ていただくんですけど、気象研究所が、気象研究所というのは気象台ですね、全国の気象台というのは台風とかそういう災害、あの水害とか、

災害とかいろんなことの気象のことやってるんですけど、実は放射線っていうものはずっと測ってます。1950年代から測ってます。東京はどこにあるか知らないんですけど気象台というところに行くと開示してくれるかどうか分からないんですけども、記録を見ると全部出てるんですけど、その親分みたいなのが気象研究所。

政府データですけども、それで見ると1957年から1980年まで、高円寺で測定してます、気象研究所は。1980年から筑波に移るんですけども、そのデータ見ると1957年からすごく高い数値をずっと維持しています。それは放射能の雨が降ってきてるからです。連日のように降ってきてるからです。ですから年配の方だと「雨に当たると頭はげるぞ」とか「髪の毛抜けるぞ」と言われた記憶あると思うんですけど、実は本当なんです。相高れです。ピークが1964年です。これが一番のピークです。僕が4歳の時です。でそれから少しずつ下がっていきんですけども残念ですけども先ほど言ったように中国が続けていくのもその下がり方というのはそんなに大きな急激な下がり方ではないということです。そして1986年チェルノブリでドーンと上がって、またそこから下がって行って、そして2011年、とてつもない線量がこの東京にばらまかれました。筑波ですけど、もうほとんど桁違いの数値がそこに記録されています。東京の東側というのはチェルノブイリ法に当てはめると避難してもいい権利の発生する場所です。でも日本人たちはもう全くそこにあまり考えることもなく、というか、まあしょうがないのかもしれないけれども、みんな普通に暮らしていると。チェルノブイリだったらまあ避難してもいい権利の発生する場所というところはリスクがあるから、おそらく住まないんだと思うんですけど、日本の場合はとにかく大丈夫だから住みましょうって、もっと期待が上がると(?)もっと危ないチェルノブイリ法だと、もう立ち入りしてはいけない場所なんですけど、そこにみんな戻ってきて、戻って来たいという風に戻らせて、そこで暮らさせてるとか、日本政府のこれものの考え方なのでしょうがないんだと思うんですけども、科学的医学的に言うと、ものすごくリスクが高いということです。そのことは僕もなかなか、例えば福島の人たちに言うのは本当になかなか難しいです。彼ら自身は故郷なので、その権利があります。だけど科学的、医学的に言うとそこに子供たちを住ませるのは本当にリスクがあるので、本当僕も言いたいけど言えない、でも言わないといけないうっていうその迷いの中でずっと今暮らしているところですよ。ただとにかく日本と違うのがとにかく強烈な放射能汚染をしているということです。数年前に日本テレビでも放送、僕、テレビのディレクターもやっていますので、日本テレビでも放送しました。沖縄と京都と山形で土を採取してそれをその科学者の方に測ってもらってセシウム137が出るかどうかやりましたけど、ほぼ全てで出ました。ですから、皆さんが住んでいるこの東京都内もそうです。それが運動場、園庭、畑、田んぼほぼ日本の全ての場所で、人工放射性物質はあるということです。で最後の方にあのパステイア教授がはちみつの話やりましたけども、日本全くというかもっとひどいと思うんですけど、その状態でするのでオーガニックの野菜とかで気をつけてる方いらっしゃると思うんですけども、農薬は入ってないけど放射性物質入ってるというそこは自覚しないといけないんです。でそれを言うんですけども、皆さんもうなんかもうそんな、伊東さんそんなもう終わりみたいな話しないでくださいよって言われるんですけども、僕が言いたいのは、もう今はもうしょうがないですこれは。除染するたっってもう、全国の土、全部どけるんですか、じゃ、どこに持っていくんですかって話になります。不可能なんです。だけども何が言いたかというこれ以上はもう放射能汚染させないようにしようよってことなんです。で、えっと僕は今64歳です、63歳ですけども僕は僕の世代のこれは使命だと思っています。僕らの世代がこんな地球にってしまったんです。こんなひどい地球にってしまったんです。だから次の世代の子供たちにもうちょっとまともな地球を渡したいと思うんです。

資料⑥ 第75回映画の会「憲法映画祭2024（2024/4/29）伊東さんのお話（3）

だからこの活動をしています。映画っていうのはツールでしかありませんから、作品としてはどちらでもいいので、だから無料で上映してもらってたくさんの人に見て欲しいと思ってそういう形にしてるんですけども、とにかく映像を通して、皆さん、事実を知ってもらって、そして何をしたいかというとか何でもいから行動を起こしてほしいんです。

行動っていうってそんなその大きなことではないんです。例えば今日あったことを近くの方にお話しするとか、例えばSNS でつぶやいてもらうとか、何でもいいんですけども、何か一つ行動を起こしてこの地球、これだけもうポロポロになってしまったひどい地球をこれ以上汚さないということをお手伝いいただけたら本当に嬉しい。お手伝いということとなくすごくおこがましい言い方なんですけども、そんな風に思ってます。この映画を通してこれからどこまで行けるかわからないんですけども、やれるとこまで頑張るってまずアメリカを変えていきたいと思えます。これ最後なんですけどもアメリカでやりたいことはさっき言った世論を動かす、それから、議会の動かす、それからsdgs に盛り込むというこのことです。このことをやりながらアメリカを動かしたいんです。アメリカが動けば世界が変わります。日本も変わります。福島の問題やそれから、僕がずっと20年間を追いかけてるマグロ船乗組員の話もそうなんですけども、いくら日本で裁判やってもだいたい負けてしまうんです。今の日本政府の考え方がそうだからです。その日本政府に頑張るって変えようと思ってなかなか難しいんです。だからアメリカを変えていけば、アメリカの影響というのは必ず日本に及びます。だからアメリカを変えていきたいでアメリカの人たちを僕はすごくアメリカの人たちに期待しています。アメリカの人たちに声を上げてもらって世論を作って、それが日本にやってくるで、例えばの話なんて一つ最後しますけどオープンハイマーという映画が今、今って言うか、アメリカで、全米で大ヒットなんですよね。あのエンターテインメント映画として5位に入ってるんです。日本でも3月29日から公開されましたけども、オープンハイマーとか、放射能なんていうのはテレビ、僕のテレビの仕事してますけど、テレビで絶対取り上げられないじゃないですか。ほとんど取り上げられないですよ。なんでかというとも誰も見ないからなんです。視聴率取れないからなんです。だけどオープンハイマーの映画は、日本で取り上げられるんです。NHKでもいっぱい出ました。ノーラン監督のインタビューから始まっているんな人のインタビューとか、映画のことについては民放でもたくさん取り上げられるんです。それ何かというトレンドだからです。トレンドだったら日本のメディア取り上げるんです。でも真っ向から放射能とか、オープンハイマーとか言うところ取り上げないんです。だからアメリカでトレンドを作りたいと、世論を動かしたいという風に考えています。だいたい20分経ちました僕の話、中途半端なんですけどこれで終わりたいと思います。ありがとうございました

司会：どうもありがとうございますので1人2人 質問に答えていただいてよろしいでしょうか。
質問者⑤：アメリカを中心に色々調べてるということですが、ソ連はロシアが国内で核実験とかやってるってのは調べることができずかね。資料でも。そちらの方は伊東さん自身がそのソ連の核実験のこととかは調べたことはありますか？

伊東：僕はソ連はないです。ソ連とか中国に関しては、具体的には調べたことがないです。あのすごく危険だということ間違いないと思います。アメリカでも僕のようにアメリカの核兵器について調べてる人は100人以上殺されてると思います。あのハリウッド映画で『シルクウッド』って映画があるんですけど、ハリウッド映画のテーマになるぐらいです。僕と同じように調べて、女性記者ですけどもジャーナリストがバラバラになって見つかったっていうのが『シルクウッド』のテーマになってるぐらいです。

で、やり取りしてても、CIAが確認してるから、短い文にしてくれとか、あとイギリスもですね、ベテランの方たくさん取材してましたけど、あの言われたのは今、今回のインタビューに関する国防総省が盗聴してるからそれは知ってくださると、それからすぐに渡されたカラーコピーがあって、もうちょっと冗談みたいな話なんですけどカラーコピーを出されて、これ読んどきなさいって言われて渡される。

何ですかって聞いたら実際、伊東さんと同じように僕ら取材してくれてたイギリス人ジャーナリストが海岸で遺体で発見されたもののレポートだから読んどいてねって渡されたんです。読んでもしょうがないんですけど、まあそれがあの核兵器というのは、とにかくどの国にとってももうトップシークレット以上のシークレットなんです。触ってはいけないところなんです。で、とくにアメリカの場合は国家予算と軍事予算ってほとんど同じぐらいなのでメディアも軍事予算、なんて言うんですかね。それにまあ応援するような形で動いてるので、その親玉が核兵器なのでなかなかそれを追求するというのは難しいということなんで、ロシアとか中国ってさらに厳しい状況になるので、なかなか調べられるも調べられたいいかもかもしれませんが、すごく気をつけて調べられてください。

質問者④：実は私、安倍政権になるまでは、全く政治に興味がなかったんですが、安倍政権になってあのいろいろ心配になって政治を報道とか本とかでいろいろ考えるようになっていましたので、今日の映画6本のうちの5本は割と一部知ってることだったんですけども、最後の伊東先生の映画は初めて知ること、かなり驚いてショックでした。

それとは別にCO₂削減で、欧米は割と再生可能エネルギーにシフトしているのに日本はCO₂削減をするから原発を再稼働するんだっていう動きですよね。私はもともとCO₂と放射能汚染とどっちが危険なんだろうってすごく思ってたんですが、そのことをおっしゃった方に今日初めてお会いして本当に今日来て良かったなと思いました。

先ほどアメリカ議会とかにいろいろ働きかけてらっしゃるってお話だったんですが、今、アメリカ議会のまず動かして、それを日本の方の世論に持っておっしゃったんですが、それはもちろんで、しかも何もかも出来になるとは思わないんですけども、日本の政界やあの原子力業界とかには何か働きかけをなさってるのかちょっとお聞きしたいと思って手をあげました。以上です
伊東：日本の原発業界とかには、全く僕アプローチしていません。そこは頑張ってる方、たくさんいらっしゃるって例えば、伊方原発とか、反対する会とか、それぞれのところで頑張ってる方いらっしゃるんで、そこはその方たちにお任せをして僕はちょっと遠回りなんですけど、アメリカを動かすって言うところのここを分担してるというかですね。だからそれぞれがそれぞれのところで頑張るって、それが最終的に連帯していけば大きな力になるんだろうなというふうに思います。

僕、だから、力のない代表みたいなもんなんですけど、本当に自分ができてることを、僕は自称ですね、素人ビデオオタクって言って呼んでるんですけど、まあ自分は映像を作るのがオタク、仕事でもやってますけどオタクなので、そこはそこで映像化して見てもらえばあの僕の役割果たせるかなと思ってるので、だから俳句が好きならだったら、俳句でやってやればいいし、何か路上でなんかこう喋れる人がいたら喋りたいし、それぞれがそれぞれの役割を果たせばいいんだと思います。その役割がたくさんあることで、あの大きな力になると思います。なので、大きな力を持った人は確かにいるのかも知れないんですけども、それよりも確実にそれぞれが動くことが本当に大事だと思います。それが全てを変えていけるんだと思います。それがまさにルイズ・ライスさんたちの活動だと思います。どうもありがとうございました。

資料⑥ 第75回映画の会「憲法映画祭2024」(2024/4/29) 参加者感想から(1)

【参加票に寄せられた感想など】

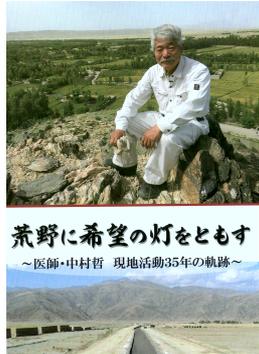
●新聞記事で知り、参加しました。とても良かったです。(S.O.)

●初出席です。

すばらしい企画ありがとうございます。

「ヤジと…」 「島で…」 若者ががんばっている姿に!!若い人が参加してくれないという声が私の地域九条の会でもあちこちでも多く聞こえてきますが、おしつけはだめ。やる気を引き出すことの大切さを学びました。「サイレント…」 本当にびっくり!!多くの人に広めたいと深く思いました。監督のお話に感銘しました。

女性のひとりとして行動の原動力にします。(A.K.)



●幣原喜重郎の憲法九条にける想いを聞いて感動しました。当時マッカーサーは日本が再び軍事大国になる事を恐れて武装放棄を推進する立場でもあったので説得できたのだと思います。その後、米ソが対立して朝鮮戦争が始まるとGHQは日本に警察予備隊を創設させましたが、幣原が作った九条のおかげで、彼らを朝鮮半島に派兵することはできませんでした。しかし、現在、集団的自衛権を認めず(徴兵もできない?)九条は日米同盟の最大な障害だとして、CSISアーミテージ氏は2022年12月のネットでの講演会で日本政府への要請事項のトップで改憲を求めました。2番目は軍事費増大。3番目は総合幕僚長に代わる指揮権を持つ指揮官(米軍指揮下に)置くことでした。その数日後の内閣決議で1の九条改憲以外はすべて応じてしまいました。米国側は台湾有事では自衛隊が先頭に立ち、最初の3週間を中国軍を喰い止めるよう、日経CSISシンポで求めています。

逆説的ですが「9条はマッカーサーが(与え?)認めた憲法」だからこそ米国や米軍を規制していると考えます。少しでも現行の九条を日本人の手によって改憲すればマッカーサーブランドが外れ、米国は日米安保条約の外国条約を根拠に日本国憲法を無視すると思っています。(F.M.)

●中村哲医師には頭が下がります。是非ベシャワール会の応援をしたいと考えています。最近欧米諸国や日本はアフガニスタンのタリバン政府に対して「女性の人権を認めないひどい政府」と決めつけて、経済制裁、資産凍結などを行い、政府打倒をもくろんでいるとしか思えない態度をとっています。これらはベシャワール会の活動にも悪影響を与え、中東の親日態度にも変化をもたらしていると考えます。まずは彼らの伝統文化を尊重し、女性人権で政府打倒をめざしていない事を信用してもらう必要があると思います。確かに女性の教育は大切ですが、現地の女性は治安と家族の安全、水と食料と職が重要でそれにくらべれば女性の教育や人権は空の上の課題なのかも知れません。(F.M.)

●「荒野に…」は上映会で何度も見てますが、見るたびに、涙と感動と、希望を覚えます。自分の行動の力にもなっています。(M.A.)

●東京にいと報道機関が沖縄や南西諸島の自衛隊ミサイル基地の問題を取上げないので「日米同盟最後のリスク」布施祐仁著ではじめて具体的に知りました。この映画で現地状況も知れてよかったです。映画を見てると、沖縄政府やGHQがまだ地元自治体だけでなく司法(裁判所)の影響力が強いのではないかと思いました。今日も安保法訴訟の報告のWEB会議がありますがこれほどデタラメな判決は聞いた事がありません。

政府や県が事前説明できないのはGHQの流れを汲むCSISのアーミテージ報告などの要求が突然日本に突き付けられるせいではないかと上記の本を読んで思いました。

NHKをはじめこの基地問題のことをもっと報道してほしいと思いました。

サイレントフォールアウト:米国のネバダ実験場からかなり離れたソルトレーク・シティーであれほど影響があった事に驚きました。

私もCO2の温暖化で世界が終わる事はないと考えていますが核戦争が起きれば直ちに人類は終わると思っています。(F.M.)

●安保条約の集団的自衛権を九条が禁じているのは、軍事同盟は仮想敵を作ることだからだと思っています。

現在法制化されようとしているセキュリティ・クリアランス(セキュリティ・クリアランス?)法案は政府が国民の身辺調査(家族・交友外国人関係、借金等)を行って民間人の情報アクセス権の資格を与える治安維持法に通じる悪法なので阻止したいと思っています。

秘密保護法→刑事訴訟法(??範囲拡大 司法取引)→共謀罪→セキュリティ・クリアランス→九条改憲

最近「民主主義と人権か専制政治か」という価値観の外交が強調されますが、「法の支配」を主張する米国は一方でイランのスレイマニ指令官を暗殺したり「民主革命」だと言って選挙結果を無視したり、新(ママ)米国のサウジに対しては専制政治を許す一方でイランには経済制裁を行ったり、クーデターを起こしてきたりと、ダブルスタンダードが激しいと考えます。(F.M.)

●(前略)貴重な学びの機会を創ってくださること感謝いたします。

花崎さんが最初のご挨拶で副題にもなっている、「小さな自由が排除された先に何があるのか考えながら見てほしい」とおっしゃっていたことが、鑑賞の導きになりました。言論の自由が弾圧され、表現の自由が奪われた先にあるものは、戦前の治安維持の取り締まりのようなことがおこり、戦争に向かっていくことにつながると思います。大杉さんがいっていたように、これは、国民みんなが当事者の問題であると思います。社会問題に興味のない方々にこの国が向かっている方向に気づいてもらうために多くの方に観て欲しいです。(M.S.)

●代島治彦 “早稲田ゲバルトの村で”は来年よろしく願います。(N.K.)

●中村さんの講演に一度伺いました。コロナ中見られなかった作品でしたのでこの機会に観られてよかったです。(K.O.)

●昨年東京に越してきて、2度目の憲法映画祭です。(中略)本日は参加できてよかったですと思います。

これからも「私たちの憲法を守る」映画祭をぜひ、続けていって下さい。私たちも、知り、声を上げ続けようと思います。今日はありがとうございました。

福岡出身の私です。ずっとこれからも中村先生は心にいらっしやいます。(M.Y.)

資料⑥ 第75回映画の会「憲法映画祭2024」(2024/4/29) 参加者感想から(2)

●今日のヤジと民主主義の映画をみて、憲法が改正されたらどんなことになるのか、多くの人々と憲法の大事さを知り、守ることをこれからも知らせる活動が大事だと思いました。(無記名)

●大事な事を伝えてくれた映画を見る事ができました。ありがとうございました。
1人1人が考えていかなければと痛感しました。(無記名)

●見たかった映画でした。(註「ヤジと民主主義」)
声をあげることは当然の権利。
それを知らない人が多いと思います。
これだけの映画祭を主催されていることに敬意を表します。
(無記名)

●とても良かったです。
自由にものが言え、話し合える社会にしたいと思います。
対話し続けようと思います。(無記名)

●この映画祭が続くことを願っております。(無記名)

●どれも考えさせられる映画でした。
中村哲さんの「荒野に〜」は沢地久枝さんがオバマ大統領に手紙を出し(アフガニスタンでの米軍をいさつをやめろ)あと中村哲さんのこうせきを紹介したときいてます。
・このフィルムは世界各国に字幕つきで紹介されないかと思いました。
・東京に居ると、本当にわかりにくい情報が多々あります。
本当にいい映画の集いをありがとうございました。(無記名)

●中村医師の活躍を、初めてしっかり学べて良かったです。
戦争のつくりかたの語りも良かったです。
加藤登紀子の声は嫌いです。(無記名)

●今回初めて来たのですが、特に最後の作品は初めて知る事ばかりでショックでした。
知る機会を作ってくださった企画さんやスタッフの方々に感謝しています。(無記名)

●「ヤジと民主主義」：たまたま原告席に座ることになったが、国民一人ひとりが原告」という意味のことを話されていたことが
「荒野に希望の灯をともす」：中村哲氏のお名前は存じていましたが、今回どのような信念をもち、行動されていたのかを初めて知る機会となりました。平和は理想でなく実践していくこと、自然と人間の関係=自然の恵みのなかで人間が生かされていること、自然をコントロールしようとする人間の傲慢さなど学びが多い映画でした。
「サイレント・フォールアウト」：放射線による汚染がこんなに広範囲にあることを知り、実際相当ショックでした。でも現実にも目を向けなければとも思いました。CO2よりも緊急性が高く、深刻な問題ということも気づかせて頂きありがとうございました。2019年第50回にも参加させて頂きました。何とかコロナ禍をのりこえて、今回参加できたことを嬉しく思います。(政治状況は良くなっていますが、・・・)ありがとうございました。(無記名)

●この上映活動がもっと多くの人たちに知ってもらいたいと思います。湯本監督、貴重な報告、レポートありがとうございました。伊藤監督、大変勉強になりました。何としても核を止めなければ!というつもっています。為政者のバカさ加げんにあきれるばかりです。世界を変えていきましょう。
(N・K)

●貴重な機会を設定いただきどうもありがとうございました。ただ、朝から晩までだったので大変でした。見た本数が多いので、頭の中が一杯なので感想はかんべんして下さい。(T・M)

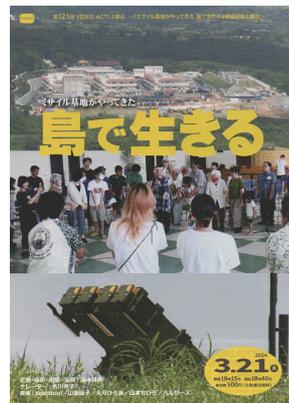
●ブラジルのえ本「茶色のアサ」のアニメがあればみたい。今日のチョイスはよかった。(K・N)

●人間達のおごりをまざまざと感じつけた映画祭でした。(A・K)

●驚きました。知らないことばかり、このような映画会の開催に感謝します。テレビは見ません。(H・S)

●今こそ「日本国憲法」の素晴らしさを日本国民が理解すべき時はない。昨日(2024.4.28)の衆院補選の立憲民主党3連勝は「民意は捨てたもんじゃない」という意味で我々を勇気づけるものである。益々頑張ってください。(H・M)

●大杉さん桃井さんを100%支持します。日本は基本的人権の尊重、国民主権そしてこの頃は平和主義ですら放棄しそうな勢いです。警察、そして裁判官までもが、国家権力に付度。安倍政権でそのことが強化され、今に至っている。自民の裏金問題、旧統一教会問題を通して、今こそ国民が自民党政権にNOと言い、デモ選挙を通して国民主権を!(K・S)



●「ヤジと民主主義」の書籍は読みましたが、やはり映像はさらに衝撃でした。とりわけのことは、高裁判決が大杉さんが危害をアベに加える危険性があったとして排除を正当化したけれど、その当日の映像には全くそうした言葉が警察から発せられておらず、最近原発訴訟でもよく見られる司法の度しがたい劣化をつきつけられた点です。その一方で、大杉さん桃井さんがヤジを飛ばしただけでなく、不当に排除されたことを訴えたことに励まされ、反省させられた市民が出てきて、行動するようになったことに希望が感じられるとともに、私自身の肝にも銘じなければと思いました。よい機会を設定して下さい感謝です。
(T・H)

●良い機会をありがとうございました。去年も参加しました。今年もこられてよかったです。是非今後、何らかの形でお力添えできればと思います。全体的にご高齢の方が多いように思ったので43才の私でもいると少し雰囲気が変わるのではと感じました。皆さんの素晴らしい活動、応援しております。(M・T)

●中村さんの成したことに言葉がない。(T・M)

資料⑥ 第75回映画の会「憲法映画祭2024」(2024/4/29) 参加者感想から(3)

●初めて参加しました。素晴らしい映画の数々をまとめて鑑賞でき、とても良かったです。ありがとうございました。(T・S)

●「公共の迷惑の名目」とどう対峙するか・・・。考えていけないですね。原告の2人の明るさもたたえた強さ、それを自分でも少しでも見習いたいと思いました。(A・N)

●すばらしい映画祭をありがとうございました。あちこちで上映されるとよいと思います。(M・Y)

●鈴木エイトさんの講演会でチラシを受け取りました。中村医師の話を知りたく参加しました。来て良かったです。ヘアテの贈り物も目にするのができれば幸いです。(N・A)

●年齢も、意見を口にするかどうかにも気にせず、マイノリティーほど意見を表現することが多様な社会の実現を叶える手段で、それこそが今憲法によって私たちが持ち得ている力なんだ！と改めて考えた一日でした。ありがとうございました！(K・A)

●すごくおもしろくて勉強になりました。こういう映画をたくさんの方が見ると良いと思う。(A・R)

●見のがしてしまって見たい映画「ガザに生きる ガザ攻撃」土井敏邦監督 先日板橋区医師会集報に ニューレジリエンフォーラム「国民の命と生活を守る武道館1万人集会」R6 5.30 についてという案内が入っていました。憲法における緊急事態条項新設等を提唱する医療会 経済界 防衛関係 自治体関係者等の団体(日本医師会名誉会長、現会長も発起人に就任)だということです。名誉会長 現会長を含め、ここに集まる人々に新設することの方が危険なのだ知らせる方法はないでしょうか ヤジと民主主義 4年以上かかっている裁判費用はいくらかかるのでしょうか(H・N)

●「サイレント・フォールアウト」をやっと観てショックを受けました。是非、知人達にみて欲しいので伝えます。また上映して欲しい。監督の話も皆さんに聞いて欲しいほどの撮影のち密さ、核の危険性を世界に知らしめた思いに共感します。(O・Y)

●「ヤジと民主主義」何か事件が起きると その一報をニュースで聴く、しかしその後はどうなったのか知ることなく次のニュースを耳にする。その練り直しの日々の中で自分自身も流されているように感じる。被害者にしろ、加害者にしろ、当事者でないとの安心感と疎外感 時々、社会の中の一人であることを認識するために 色々な講演会や上映会に参加してみる。そこで得た情報や感動をちょっと知人・友人に伝える。少しだけカンパもする。いっぱい資料(チラシなど)を持ち帰り、読んでみる。そして参加できそな催しをみつけてまた足を運ぶ。

自由にそこに足を運ぶだけで、見たい映画を見、講演を聞くことのできる幸せ、それをこそ実感しています。この今の幸せがずっとずっと続いてくれることを切に願ひ その今の実現のためにちよびり勇気とゆるりがんばりそして笑顔を忘れないよーに もうすぐ66才です。(祝5月11日) (Y・K)

●今回初めての参加です。とても良かったです。(O・A)

●関東大震災、朝鮮人・中国人虐殺100年のテーマ、731部隊の真実、福一の真実(K・K)

●準備して下さった皆様、ありがとうございました。リストも感謝です。表紙の裏表でみた映画が多くありました。再度みたいと思う映画もあり、機会をみつけます。(O・S)

●「島で生きる」石垣島の方々の粘り強さ、かつ軽やかさ、ユーモアに感銘いたしました。本土のメディアではほとんど報道されていません。映像から自衛隊装備の物々しさが伝わってきました。

日中両国のい平和条約は無効になってしまったのでしょうか。戦争を防ぐにはどうしたらいいのか 答えが浮かびません。国にも自治体にも我々がしっかり監視し見据えていくことが大切と感じます。

私もささやかな住民運動の一員となり、区議会に請願を提出しました。予想通りとはいえ結果は不採択でした。「決まったことだから従え」という行政に対しては、つねに異議申し立てをしていこうと思っています。

※一人ごと一 私年代では美濃部都政、飛鳥田市政にまだ幻想を抱いているかも知れません。

アメリカでも反イスラエル、パレスチナ支持の大学生達が行動を始めています。多用であっても動きましょう。

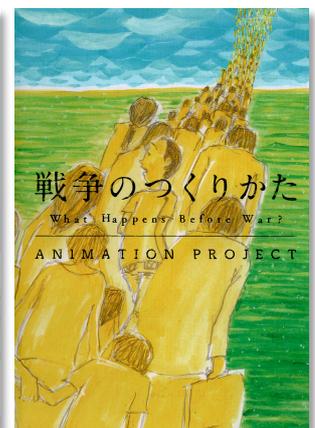
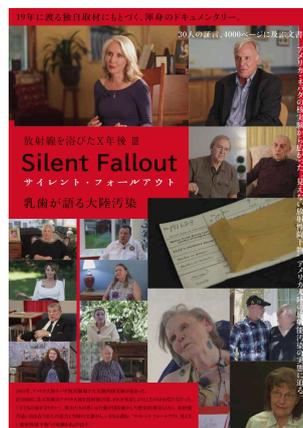
(O・Y)

●皆様の取り組みに頭が下がる思いです。中村哲さんの映画、素晴らしいものを観せていただき、本当にありがとうございます！観ることができ、本当に良かったです！！

(M・A)

●もともと選挙や選挙映画と社会科見学が好きで、その延長として観にきました。映画2本を観て私の好きな選挙や社会科見学も楽しめなくなるのではないかと危惧すら抱きました。どうしたら民主主義を楽しく続けられるのだろうかと考えてしまいました。(O・M)

●統一教会グルグル、パーティー券ウラ金犯罪集団で正当性ない政府・政権がアメリカ政府・米軍の傀儡となって憲法のしぼりを無視して(憲法違反の連続で)戦争を具体的にできる(する)準備をしている。危機的な状況。「九条を守る」も何もクーデターの連続でしょうか それでも希望をなくさないで、動きたいです。「サイレント・フォールアウト」伊藤監督とてもよかったです。ありがとうございました。(K・M)



●様々な映画が観れて楽しかったです。色々な映画をもっと上映して下さい。(K・Y)

●この国から一刻も早く「自民党と自民党的なもの」を無くさなくてはならない そうでないニッポンと地球はもうもたない そうでない人類とこの星の生物は絶滅する本当にそう思います。(E.S.)

資料⑥ 第75回映画の会「憲法映画祭2024」(2024/4/29) 参加者感想から(4)

●「ヤジと民主主義」①特定秘密保護法の時、国会前デモに参加したが、国会が近付くにつれ、宣伝車が排除され、次に「のぼり」を降ろすように指示され、最後に拡声器を使わないように指示された。静かなデモ行進になったので大声で「特定秘密保護法反対」と叫んだら、翌日自民石破氏が「大声で叫ぶことはテロ行為」と発言していたので、デモの届出を認めながら政治的主張を叫ぶ事がなぜ警察に止められるのだろうかと疑問に思っていたのでドキュメント映画の主旨には賛同する。②しかし対立する政治団体側の演説会場に行きプラカードを掲げる事は許されると思うが、相手の演説会を妨害する行為はやりすぎだと思う。今年も5/3有明公園の集会が近付いているが警察は右翼の暴力的な運動員や宣伝車が接近して妨害するのを止めてくれている事も事実である。互いに政治的主張を自由に行える事が民主主義だと思う。③いつまでも「安倍改憲反対」と暗殺された安倍氏にこだわるべきでない。今まさに「セキュリティ・クリアランス」法が通り政府が民間人の身辺調査を行い秘密事項へのアクセス資格を与える仕組みが実施されようとしている。これは「経済安全保障」の一言で片付けられるものではなく、まさに治安維持法につながる「スパイ防止法」的性格な法律だ。「特定秘密保護法」(公務員対策)→「刑事訴訟法」(盗聴・サーバー公安設置)→「共謀罪」→「セキュリティ・クリアランス」これらはすべて第1次～第6次アーミテージ・メイ報告に書かれている米国側要請である。(M・H)

●自民はひどいが、同等かそれ以上で大手新聞の罪が重いと思います。ロシアのように安倍路線が正しいと影ながら応援しているようで、そもそも軽減税率というエサに喰いついたこと。外食が10%なのに??自民党员にとっては外食≒会食≒贅沢かもしれませんが、仕事でクタクタで自炊する体力気力時間がなく、外食する人もいるはず。その場合、外食≒生きる術です。また、新聞読者も見くびっています。8%なら講読するが10%ならしない人など微々たるものでは?エサを与えられて報道方針に左右しているのでは……。失望しつつも、朝日から東京新聞に換え購読していますが、いつか失望が増大し、見切りをつけなければならぬかと心配しています。紙の新聞や本屋はセレンディピティの源ですので。映画ももちろんでこの会には感謝しています。大手メディアの醜態(現状)もテーマにして頂きたいです。

★中村哲さんこそ国民栄誉賞に相応しい方、政府はスポーツウオッシングばかり。また、中村氏と正反対のことばかりし、中村さんを国民に知らせぬようにしているかのよう!!!

★湯本監督が軍備費が1.6%になり、中国と並んだとおっしゃいましたが、あくまでもそれぞれの国のGDP比であって、衰退する日本はパーセントを上げて抑止力にはなれず、泥に金を捨てるようなものではないかと思っています。質問し損ねてしまいましたが、いかがでしょう。人口も自衛隊員も減る中、自衛隊の能力は維持も大変だと思いますし、兵器爆買に現場が望んでいるものとも違っても聞いており、不信感で一杯です。ただアメリカに押売りされているだけでは?

★政府がCO2削減のために原発再稼働ということに、CO2と放射能物質のどちらが危険?と疑問を持っていました。このことを口にする方に初めて会え、今日来て本当に良かったと思います。アメリカの議会で働きかけていらっやるとのことですが、日本の政界や議会で働きかけていらっやるとのことですが、日本の政界や原子力業界にはどのような働きかけをしていらっしゃいますか?(O・A)

●健闘を祈ります。続けることが力だと思います。(Y.N.)

●今後の糧にしています。(H.N.)

●中村さんの『荒野に希望の灯をともし』は何回見ても中村哲さんのすばらしい人間性に感動します。「サイレント・フォールアウト」は何度も見逃しているの、今回は絶対に観ようと思っていました。心に残りました。(K.K.)

●映画の選び方もとてもよく、時々参加させて頂いていますが。映画館でないから仕方ないと思いますが……観客のマナーがよろしくない!!説明をしている間のおしゃべり、上映中のおしゃべり。暗い中スマホをいじりまぶしくさせるなど……少し注意が必要なのではないか……と思いました。(T.S.)

●資料をいただきたくよろしく申し上げます。今日は貴重な機会をほんとうにありがとうございました。(S.T.)

●中村哲医師の他のドキュメンタリー映画、『教育と愛国』の上映を希望します。あと、共配付された資料を郵送して下さるよう、お願いいたします。(M.T.)

●住民訴訟の判断がすべてバラバラで、要するに「住民投票させたくない」だけの司法判断はひどすぎる。石垣島で起きていることは、今後本土、日本全体にも及びかねない。(T.T)

●資料なくなる程、盛況でよかったですね。資料をお送りください。よろしく申し上げます。とてもいいラインナップに感心です。「サイレント・フォールアウト」をととても見えたかったので、地元で見れ、この機会を得、良かったです。ベシヤフル会の会員で、カレンダーと資料知人関係お持ちしました。昨年2冊と今年1冊です。ご活用くだされば幸いです。(Y.T.)

●米国の放射能汚染の影響を知れる大変貴重な作品だと思いました。今回SDGSについて米国で訴えるとのことでしたが、米国のマイノリティの人々についての影響、つまり先住民の方の影響についても触れた方が良いと思いました。(M.N.)

●伊東さん、お疲れさまです。ずっと見たかったので、やっと見れました。この間「オープンハイマー」を見てきました。そして今日。これからも、原爆の影響は続いていく……。いったい、何をどうしたら…。見たい映画『ベルファウスト』『僕達の哲学教室』『ゲート』『X年後の世界』シリーズ。伊東さんの作品。『ゲッペルスと私』『ユダヤ人の私』(Y.N.)

●映画会の存続を願います。また吉祥寺の近くのこの場所は利便が良く、多くの方が見れると思います。「サイレント・フォールアウト」、すごいでした。(T.H.)

●今日のパンフレットをお願いいたします。「サイレント・フォールアウト」、まったく知らない映画と内容に驚きでした。これを加えての憲法映画祭を開催して下さったことに感謝します。ありがとうございました。(T.F.)

●『福田村事件』も素晴らしい劇映画です。日本のドキュメンタリー映画ががんばっていること、たのしく思いました。『BS世界のドキュメンタリー』にも敗けていない。ドキュメンタリー作品にとって一番の問題は、地上波放送がめっきり少なくなったことですね。日本の報道の自由度の低さが原因なのではないでしょうか。“サイレント・フォールアウト”素晴らしいかったです。(Y.I.)

●大変素晴らしい映画を拝見させていただき、心から感謝します。大変勉強になりました。今後とも宜しくお願い申し上げます。(M.N.)

資料⑥ 第75回映画の会「憲法映画祭2024」(2024/4/29) 参加者感想から(5)

●ヤジと民主主義→あの時のヤジと警察のことがよくわかった。警察は国家の犬、司法も影響及ぶ。言論封殺は今より凄まじかったんですね。ヤジすらも許されない。暴力ふるう公権力は許され罪を問われない社会に。恐ろしいと思う。治安維持法再来ですね。私も街宣で警察と言論・表現の自由弾圧に抗議し、戦ってきた身なのでごく映画に共感しました。

中村哲さんの偉業は本当に素晴らしい。砂漠を見てそれを縁にしたいと思っても、その無謀とも思えることにチャレンジする人はいない。中村さんの場合、医者で最初その発想はなかったはず。でも人々とふれ合い、この国の状況を憂い、困難なことにチャレンジし、その思いと行動に現地の人も協力し、力を合わせて挑む。人も大地の豊かになり、自然の恵みとは本当にすばらしいと感嘆します。なぜ中村さんを銃撃するのか、身勝手なエゴのせいだろう。石垣島の自治基本条例に基づいて署名集めて、住民投票の実施を市長は応える義務を果たさずに、その後条項を勝手に削除して、それを通すってありえない。権力によってねじ曲げられることがあってはならない。民主主義がこわれてる。国民主権を踏みにじり、憲法99条の公務員の義務を果たさない憲法違反ばかりです。国家主義にとってかわり、威張ってる。憤ります!!

私は今、川崎市で地方自治改悪について市議へのアンケート調査してます。東京新聞に記事になりました。私はもの言う市民として戦う。(N.O.)

●すべてすばらしい映画でした。年一回だけでなく、2回ぐらいこの企画をやってほしいと思いました。ありがとうございました。(H.F.)

●中村さんの平和の思いを受け継ぎたいと思います。(R.A.)

●“Silent Fallout”は2回目ですが、改めて感銘しました。「Dr.Louise Reiss—母親たち—JFKennedy」の組み合わせ、「科学者—市民—政治」の組み合わせとして1つのidealな形と思いました。また、St Louisの母親たちが「共産主義者」とそしられたのは『Oppenheimer』でOppenheimerもふくめて様々な良心主義者が「共産主義者」とそしられているのと共通と思いました。(なぜか日本の映画評では「共産党(主義)」のことはでてこないふしぎ)(N.I.)

●案内を送ってください。有難う。湯本さんの作品は、見たかったです。(N.I.)

●他の作品も見たかったので、時間の都合で失礼いたしました。上映権を得て、上映会をしたいと思います。ただ大人数集めるのはなかなか難しいこともあるので情人数でもじわじわできるような作品が増えると(製作が大変なものも承知してますが)嬉しいです。『島で生きる』また今年も上映会します。よろしく願います。(S.M.)

●友人と来て良かったです。♡♡(後略)(Y.M.)

●護憲活動などをしておりますが、とてもタメになり、元気を頂きました!ありがとうございました。(T.S.)

●今を生きる、忘れてはならない心の底の流れを思い起こさせて貰える。どの映画にも感じる、地球のどこにあって、普通に生きている人たちに共通の大事な願いと思う。真実を探って知らせて下さる人はいつもいて下さる。感謝してこちらも今の真実は何なのか考えながら暮らしていくことを思う。(N.F.)

●いろんな所でそれぞれがんばっている人を見て良かったです。(A.K.)

●『ヤジと民主主義』権利を守るために、若い人たちが、めげずに、明るく声をあげ続けることにとても励まされました。後半では涙でました。それにしても大杉さん敗訴の判決理由はひどい。司法とは何なのかとってしまいます。

『サイレント・フォールアウト』アメリカの被曝状況がこれほどとは、とそらおそろしくなりました。伊東監督の話をきき、日本はもっとひどいとのこと。これ以上、世界を悪くさせないために、何ができるかと考えてしまいます。(H.I.)

●参加者が多かったので良かったです。定例会もこうなるといいですね。(T.M.)

●見た映画全てに感動しました。平和とは何か、どうしたら平和な世界を作れるかを学びました。このような素晴らしい映画を多くの人々に観て欲しいと思いました。全国のいろいろな場所で上映して欲しいと思います。(H.S.)

●貴重な映画会を有難うございます。今日の井の頭公園には初夏のさわやかな風が吹いてました。ウクライナ戦争など各地の戦争が一つ一つ停戦されますように。(K.N.)

●『しではら』幣原首相が平和憲法をマッカーサーに提案したことを初めて知りました。憲法は日本人が提案してつくったという誇りをもつことが出来ました。

『荒野に灯…』中村哲医師の偉業が感動的に語られていました。医師が水路をつくり60万人の食料線をつくる、日本人としての誇りです。イスラムの教え、男性中心の社会、この社会への対応も彼。深き人間性が感じられました。石垣の自衛隊ミサイル基地反対、基地建設でなく、対話と外交で中国と対応したい石垣の人々の気持ちがにじみ出ていると思った。(T.H.)

●演説妨害の右翼の大騒音の場に何回か居合わせていて、警察がどうして制止しないのかとって思っていた。それとは全く性格の異なる異議申し立てのヤジの権利が守られたことの大切さを知った。この異議申し立てから、それを支持し共に運動して人たちが広がっていったこと、それを映画にする人たちがいることに希望を持った。市民の権利を守るのではなく、国家権力に奉仕する警察の姿が見えてきた。(R.S.)

●本当に有意義な映画会をありがとうございました!!

「しではら」幣原喜重郎の「平和文書」日本中、世界中の方に知ってほしい。外務大臣を歴任し、不戦条約や軍縮会議がいとも簡単に崩壊にされてしまったこと。原敬、犬養毅の暗殺で文民統制は軍部が武器を持つ限り机上の空論になってしまう恐ろしさを身をもって体験してこられたからこそ、「軍縮を可能にする唯一の方法は世界でいっせいに軍備を廃止するんだ…非武装は素晴らしい狂気だ。その歴史的使命を日本が果たすんだよ」「日本は正しいことを他の国より先に行ったのです」。このすばらしいメッセージを伝えて下さった門真市の方々、憲法を考える映画の会のスタッフの方々に心より感謝申し上げます。

「戦争のつくりかた」のアニメは今や現実となり日本も戦争に突入する直前の状態、古代から「平和」は何かとして戦争をやらぬで済む方法を考えようと努力してきた人々の汗と涙無しに実現しませんでした。中村哲さんがおっしゃった様に私たちは「大自然の恵みのおこぼれ」をいただいてやっとなんかされているという謙虚な心で支え合い、助け合い、命を育てて行くという当り前の営みを国益とは比較にならない大切な価値と心して生きていかなければと思います。

(A.K.)

* 以上は、憲法映画祭2024に参加いただいた方で「参加票」にご意見をいただいた方から一部掲載させていただきました。

第77回 憲法を考える映画の会

と き：2024年8月11日（土）1：30～4：30
 ところ：文京区民センター3A会議室（地下鉄春日駅2分）

プログラムはまだ決まっていません。
 被爆の日の後、敗戦の日を前に関連のプログラムを考えてます。
 ご意見、ご提案をお待ちしています。

第9回 むのたけじ反戦塾

と き：2024年8月17日（土）
 13時30分～17（13時開場）
 ところ：文京区民センター2A会議室

8月21日はむのたけじさんの命日でもあります。
 亡くなって8年目になります。
 次回は、同じ文京区民センターですが、少し大きめの会場を用意しました。
 より多くの人に呼びかけていけるように、今まで参加いただいたみなさんと、魅力的なプログラムを考えて行きたいと思えます。ご意見をお寄せください。

2022年12月から始めた学習会（むのたけじ反戦塾）も6月で8回目、8月には9回目になります。
 この「むのたけじ反戦塾」は、2015年5月の有明憲法集会でのむのたけじさんの反戦の演説から始まっています。
 むのさんの晩年の反戦の訴えを記した著書、映像と一緒に見て「戦争はいらぬ 戦争をやらぬ世へ」を実現するためにどうしたら良いか「たいまつ」の精神で、ひとりひとりが思うことを出し合い、方法を考え、意識を深めています。
 2～3ヶ月に1度のペースで、少人数で話し合います。
 *問合せ先：090-4599-5314 武野
 〒338-0006 さいたま市中央区八王子4-7-10-201
 E-mail:dmuno@jcom.home.ne.jp

上映会・催し案内

7月6日（土）13時半～ 15時40分～ 19時～『教育と愛国』上映会（すみだ生涯学習センター＝京成曳舟駅）
 7月12日（金）18時半～ 津久井やまゆり園事件から8年、障がい者の生きる権利と闘い『生きるのに理由はいらない？』上映会（ココネリ研修室＝西武池袋線練馬駅）
 7月6日（土）15時半～ 映画『サイレントフォールアウト』上映＆トークの会（小手指公民館分館ホール＝西武池袋線小手指駅）
 7月13日（土）14時15分～（～15日）第10回うらやすドキュメンタリー映画祭
 『WILL』『「生きる」大川小学校津波裁判を闘った人たち』『サイレン・フォールアウト』『絶唱浪曲ストーリー』『映画〇月〇日、区長になる女。』『燃えあがる女性記者たち』『目の見えない白鳥さん、アートを見に行く』『無理しないケガしない明日も仕事！新根室プロレス物語』『ハマのドン』『ビヨンド・ユートピア脱北』（浦安市文化会館＝新浦安駅）
 7月27日（土）11時～ 「レイバー映画祭」(全水道会館＝水道橋駅)
 8月4日（日）夜 『死んだるヒマはないー益永スミコ86歳』（全水道会館＝水道橋駅）
 9月21日（土）・22日（日）被爆者の声をうけつぐ映画祭2024（武蔵大学＝江古田駅）

憲法を考える映画のリスト 2024年版



新しい「憲法を考える映画のリスト 2024年版」が完成しました。できるだけ多くの方が自主上映会をできるような手の届く作品を選んでいきます。
 新しく付け加えた映画は71作品。全部で168作品、68ページのリストになります。

* 「憲法を考える映画のリスト2024年版」ご希望の方は、「憲法を考える映画の会」まで、ご住所をメールまたは郵送でお知らせください。
 映画祭、上映会の会場でも販売しています
 * 1部500円（+郵送の場合送料250円）

* お支払い方法
 「憲法を考える映画のリスト2024年版」をお送りする時に、お支払い方法について書いたものを同封します。

郵便振替、銀行振込でも可能ですが、郵送で（封書に1000円札を入れて）で送っていただいても結構です。（その場合、残りの250円は「憲法を考える映画の会」上映会の案内郵送料のカンパとさせていただきます。）

* 郵便振替：口座記号・番号00170-2-729555
 憲法を考える映画の会
 * 銀行振込：三菱UFJ銀行 普通口座 新宿中央支店（店番469）
 3726808/ハナサキサトシ

「映画の会」案内郵送料 カンパのお願い

「憲法を考える映画の会」の案内を郵送でご希望の方に、郵送料のカンパをお願いしております。新たに郵送での案内を希望する方は、上映会の「参加票」にその旨、お書きください。また、このチラシの表面の連絡先にメール、郵便、電話などでお知らせください。

郵送料のカンパは「お気持ち」の額を、映画上映会の時に「受付」のカンパ箱にお入れください。

また、上記「憲法を考える映画のリスト 2024年版」にありません郵便振替、銀行振込でもお送りいただけますが、郵送で（封書に1000円札を入れて）送っていただくか、84円切手を10枚程度を送っていただいても結構です。

何とぞよろしく申し上げます。
 （メールでの上映会案内のご希望は、これまで通り、上映会の「参加票」、またはメールでお知らせください。）